SOTEC

PC STATION

PC STATION Vシリーズ
ユーザーズガイド

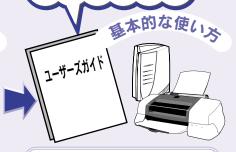
電源を入れる・切るなど基本的な操作から、各機能の使い方を説明しています。

マニュアルマップ

必ずお読みください

まずこれを読もう!

基本的な機器の接続と、使用する前の準備について説明しています。

次にこれを読もう!

各種ドライブの使い方や周辺機器との接続方法について説明しています。

サポートに関しては

SOTECのサポート情報、本製品の保証について説明しています。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。
国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとした、オフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。
このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品はコンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリ、複写機、スキャナ、複合機のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク(ロゴ)は参加各国の間で統一されています。

警告

本製品は、人命に関わる設備や機器(医療機器、原子力設備に関連する機器、航空宇宙機器、運輸設備に関連する機器など)や、高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの使用や組み込みを目的として設計されていません。これら設備や機器、制御システムなどに本製品を使用された場合、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。

はじめに

このたびは、ソーテックPC STATION Vシリーズをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
このユーザーズガイドでは、PC STATION Vシリーズのご使用にあたって注意していただきたいことや、基本的な使いかた、および、より有効に活用する方法を、7つのセクションに分けて説明しています。
ソーテックPC STATION Vシリーズを正しくお使いいただくためにも、必ずこのユーザーズガイドをお読みください。
読み終わった後は、いつでもご覧いただけるよう、大切に保管してください。

また、このユーザーズガイドをお読みになる前に、別冊の「Vシリーズファーストステップガイド」に従って、機器の接続を終了させ、Windows XPが起動できるように準備しておいてください。

Windowsの起動後には、[スタート]ボタンを選択して表示される「本製品をご購入のお客様へ」を必ずお読みください。
この中には、PC STATION Vシリーズを使用される上で重要な情報が記述されています。
特に、Windowsを再インストールする場合は「本製品をご購入のお客様へ」に書かれているとおりにドライバソフトなどのインストールを行わないとPC STATION Vシリーズの性能を充分に発揮できないばかりか、一部の機能が動作しなくなる場合があります。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報処理装置です。この装置は家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しくお取り扱いください。

本製品を正しく安全にお使いいただくために

この取扱説明書では、製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠**警告**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠**注意**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⃠ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。左図の場合は「分解禁止」という意味です。

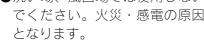
● 記号は行為を規制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜いてください」という意味です。

⚠ 警告

水場使用禁止

●洗い場、風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

●付属の電源ケーブル以外は使用しないでください。
火災･感電の原因となります。

●電源が100〜240Vの範囲内であることを確認して使用してください。
100〜240Vを超える電源を使用すると火災･感電の原因となります。

●絶対に分解したり修理･改造をしないでください。
火災や感電の原因となります。
また、無償修理の対象外となります。
修理はSOTECテクニカルサポートセンタにご相談ください。

電源プラグを抜く

●本体から何かこげるような匂いがしたり､表面がかなり熱いときは直ちに電源プラグを抜いてください。
そのままご使用になると火災･感電の原因となります。
SOTECテクニカルサポートセンタにご相談ください。

⚠ 注意

●電源プラグを抜くときはケーブルを持たず、必ずプラグ部分を持って抜いてください。

●振動や衝撃の加わる場所には設置しないでください。また、重い物をのせないでください。
故障による火災・感電の原因となります。

●通風孔をふさがないでください。故障による火災の原因となります。

●本体を持ち運ぶときは、衝撃を与えないようにしてください。

●電源ケーブルの上にものをのせないでください。電源ケーブルが痛むと漏電・火災の原因となります。

●旅行など長時間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。
漏電・火災の原因となります

●熱の発生源の近く、直射日光のあたるところ、腐蝕性ガスのある環境、ほこりの多いところ、使用周囲温度(10～35℃)/使用周囲湿度(20～80%ただし結露しないこと)を超える範囲では使用・保存しないでください。

●家電製品のそばにはなるべく設置しないでください。

●雷が近いときは、すみやかに電源をOFFにし、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
また、モジュラーケーブルやLANケーブルなど、接続されているケーブル類も抜いてください。故障する可能性があります。

⚠ 取り扱い上の注意

●本体外装の汚れは、清潔でやわらかい乾いた布を使い、から拭きしてください。

●フロッピーディスクドライブは、乾式のクリーニングディスクを使って、定期的にクリーニングしてください。

●ハードディスクやフロッピーディスクが動作中のときは、移動させないでください。

●本製品に付属のCD-ROMディスクは大切に保存してください。

●ハードディスクに保存したデータなどは、定期的にバックアップをお取りください。

目　次

STEP1 ご使用になる前に

STEP2 使ってみよう

STEP3 周辺機器を使いこなす

STEP4 本体内部の増設について

STEP5 インターネットとホームネットワーク

STEP6 困ったときには

付　録

このマニュアルの読みかた

各ページの構成

このページは、構成の説明用に作成したもので、実際のページとは異なります。

インデックス

各章ごとに区切られています。

大見出し

この項目の概要

中見出し

補足的な説明や、知っておくと便利なポイントです。

操作してはいけないこと、または操作するときに注意するポイントです。

参照していただきたい別冊のマニュアルやオンラインヘルプを紹介しています。

☞参照ページ

その単語 または項目の詳細が別ページに紹介、または説明されています。本文とあわせてご覧ください。

章の構成

このユーザーズガイドは、お客様のレベルや使いかたに応じて、大きく7つのセクションに分けて説明しています。

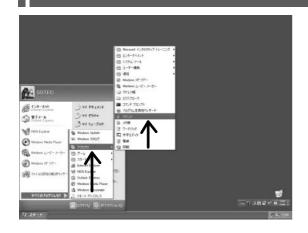
内容	章		
本体各部の名前とはたらき、背面にある端子の名前と機能、電源の入れ方までを説明しています。	**ご使用になる前に**	**STEP1**	
マウス、キーボード、CD-ROM ドライブなど、PC STATION が標準で持っている機能について、基本的な使い方および注意事項を説明しています。	**使ってみよう**	**STEP2**	
AV 機器や USB 機器など、PC STATION と接続できる周辺機器の紹介と、接続の方法や注意事項について説明しています。	**周辺機器を使いこなす**	**STEP3**	
メモリやハードディスクの増設、SCSI 機器の接続など、PC STATION 内部に増設できる機器の接続方法について説明しています。	**本体内部の増設について**	**STEP4**	
インターネットへの接続方法、ホームネットワーク(LAN)の設定方法について説明しています。必要に応じてお読みください。	**インターネットとホームネットワーク**	**STEP5**	
PC STATION、および PC STATION に接続している周辺機器を使っていて、困ったことがあれば参照してください。	**困ったときには**	**STEP6**	
PC STATION の内部プログラム(BIOS)の操作方法と、その機能について説明しています。また、パソコンに関する用語集、および索引を掲載しています。必要に応じて参照してください。	**付　録**		

PC STATION を使うのは初めてという方は、「STEP1 ご使用になる前に」および「STEP2 使ってみよう」をまずお読みください。マウス、キーボード、CD-ROM ドライブなどの使い方を説明していますので、PC STATION を一通り使いこなすための知識が身につきます。

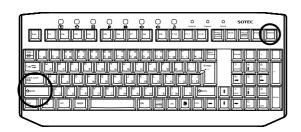
USB 対応のスキャナを使いたい、ハードディスクを増設したい、インターネットを使いたいなど、本製品をより有効に活用したいときは、「STEP3 周辺機器を使いこなす」、「STEP4 本体内部の増設について」、「STEP5 インターネットとホームネットワーク」をお読みください。

使っているときに動作がおかしくなったり、何らかのトラブルが発生した場合は、「STEP6 困ったときには」をお読みください。トラブルを解決する手助けとなるでしょう。

マニュアルの表記について

操作の表記ルール

次々とメニューを選択していく動作を本マニュアルでは「→」を使って省略している箇所があります。例えば、左画面のように、スタートボタンから「ペイント」のプログラムまでを選ぶ動作を、

[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[ペイント]

と表記しています。

何かのキーを押しながら、他のキーを押す動作を本マニュアルでは「＋」を使って省略しています。例えば、左図のように、Shift（シフト）キーを押しながら、Delete（デリート）キーを押す動作を、

Shift ＋ **Delete**

と表記しています。

また、キーボード上の絵は、次のように簡略化して表記しています。

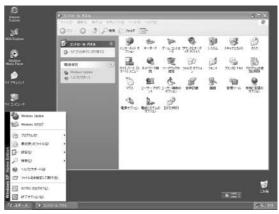
キー表記とキーボードの対応表

本書の表記	実際のキー	本書の表記	実際のキー	本書の表記	実際のキー
Esc	Esc	BackSpace	Back Space	PageDown	3 PgDn
Tab	Tab	Insert	Insert	F1 F2…	F1 F2 …
Ctrl	Ctrl	Delete	Delete	変換	変換
Shift	Shift	Home	7 Home	半角/全角	半角/全角 漢字
Alt	Alt	End	1 End	NumLk	Caps Lock 英数
Space		↑↓←→	↑ ↓ ← →		
Enter	Enter	PageUp	9 PgUp		

Windows XPの表記ルール

カテゴリ表示モードの画面で説明しています。

Windows XPには、カテゴリ表示モードと呼ばれる通常の表示方法と、Windows2000など従来の表示イメージにあわせたクラシック表示モードと呼ばれる表示方法があります。本マニュアルでは、カテゴリ表示モードの画面で説明しています。

カテゴリ表示モード

クラシック表示モード

Windows XP Homeの画面で説明しています。

Windows XPには、Windows XP ProfessionalとWindows XP Homeの2種類のバージョンがあります。機能の違いはほとんどありませんが、Windows XP Professionalは、マルチプロセッサおよびリモートデスクトップの機能に対応しています。本マニュアルでは、Windows XP Home画面で説明しています。

Windows XPまたはWindowsと省略して表記しています。

本マニュアルでは、Microsoft Windows XP Professional日本語版およびMicrosoft Windows XP Home日本語版を、Windows XPまたはWindowsと省略して表記しています。

モデル名の表記ルール

本マニュアルでは、CD-ROMドライブモデル、CD-R/RWドライブモデル、コンビネーションドライブモデル(CD-R/RWとDVDドライブが1つのドライブ)、DVD-RWドライブモデルの4モデルについて説明しています。お客様が購入されたモデルによっては、本マニュアルで説明している機能が使用できないことがあります。

本マニュアルでは、便宜上、CD-ROMドライブモデル、CD-R/RWドライブモデル、コンビネーションドライブモデル、DVD-RWドライブモデルのドライブ名を総称して、CD-ROMドライブと表記しています。

・本マニュアル中の画面・イラストはモデル、ご使用の環境により実際のものと異なる場合がございます。
・記載しておりますホームページの内容やアドレス、サポートセンタへのお問い合わせ番号は、本マニュアル制作時点のものであり、変更する場合がございます。

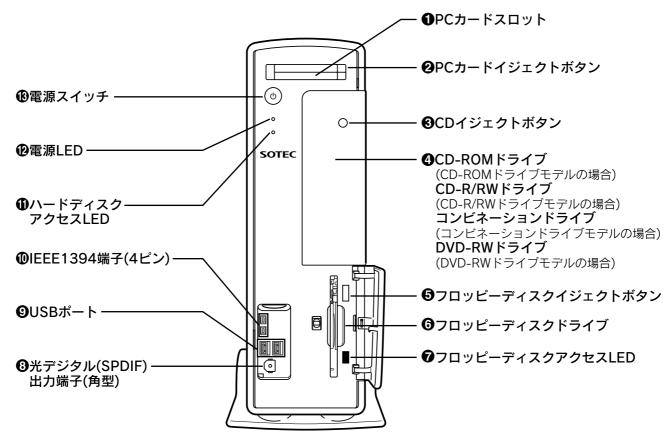
STEP 1

ご使用になる前に

本体各部の名前とはたらき、背面にある端子の名前と機能、電源の入れ方までを説明しています。これから本製品を使いこなしていくために基本的なことがらを説明しています。必ずお読みください。

1 各部の名前と機能を確認する

本体各部の名前とその機能について説明しています。なお、別のページで詳しく説明されている部分もありますので、参照ページもあわせてお読みください。

本体前面(まえ)

❶PCカードスロット
❷PCカードイジェクトボタン
❸CDイジェクトボタン
❹CD-ROMドライブ
(CD-ROMドライブモデルの場合)
CD-R/RWドライブ
(CD-R/RWドライブモデルの場合)
コンビネーションドライブ
(コンビネーションドライブモデルの場合)
DVD-RWドライブ
(DVD-RWドライブモデルの場合)
❺フロッピーディスクイジェクトボタン
❻フロッピーディスクドライブ
❼フロッピーディスクアクセスLED
❽光デジタル(SPDIF)出力端子(角型)
❾USBポート
❿IEEE1394端子(4ピン)
⓫ハードディスクアクセスLED
⓬電源LED
⓭電源スイッチ

SOTEC

ハードディスクアクセスLED、フロッピーディスクアクセスLEDが点灯している間は、電源を切らないでください。ドライブが故障したり、データが壊れることがあります。

❶ **PCカードスロット**
PCMCIA規格準拠のPCカードを差し込みます。
(☞ 55ページ)

❷ **PCカードイジェクトボタン**
差し込んだPCカードを取り出します。
(☞ 57ページ)

❸ **CDイジェクトボタン**
CD-ROMドライブにCD-ROMディスクを挿入するとき、または取り出すときに押すボタンです。
(☞ 29～30ページ)

❹ **CD-ROMドライブ**
(CD-ROMドライブモデルの場合)
CD-R/RWドライブ
(CD-R/RWドライブモデルの場合)
コンビネーションドライブ
(コンビネーションドライブモデルの場合)
DVD-RWドライブ
(DVD-RWドライブモデルの場合)
CD-ROM、CD-R/RW、DVD-ROM、またはDVD-R/RWディスクを挿入します。使用できるメディアはモデルによって異なります。(☞ 29～33ページ)

❺ **フロッピーディスクイジェクトボタン**
フロッピーディスクドライブに挿入したフロッピーディスクを取り出すときに押すボタンです。
(☞ 28ページ)

❻ **フロッピーディスクドライブ**
3.5インチフロッピーディスクを挿入します。
(☞ 28ページ)

❼ **フロッピーディスクアクセスLED**
フロッピーディスクドライブへのアクセス中に点灯します。(☞ 28ページ)

❽ **光デジタル(SPDIF)出力端子(角型)**
光デジタル入力端子を持つオーディオ機器を接続します。(☞ 52ページ)

❾ **USBポート**
USB規格準拠の周辺機器を接続します。
(☞ 60ページ)

❿ **IEEE1394端子(4ピン)**
DV端子付きのデジタルビデオ等を接続します。
(☞ 53ページ)

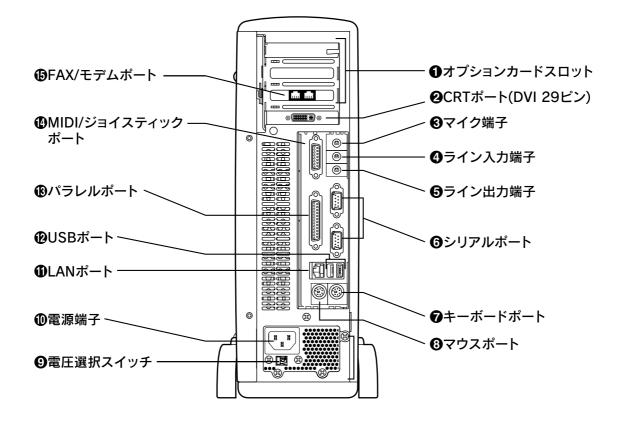
⓫ **ハードディスクアクセスLED**
ハードディスクドライブへのアクセス中に点灯します。

⓬ **電源LED**
電源の状態を表示します。

⓭ **電源スイッチ**
本体の電源をON/OFFします。また、電源スイッチを押したときに、省電力機能(☞ 39ページ)で設定した動作を実行させることができます。

注 意

ハードディスクアクセスLED、フロッピーディスクアクセスLEDが点灯している間は、電源を切らないでください。ドライブが故障したり、データが壊れることがあります。

本体背面(うしろ)

電圧選択スイッチを正しく選択しないと、本製品が故障する恐れがあります。日本国内で使用する場合、115VAC側に設定されているか、確認してください。

❶ **オプションカードスロット**
オプションカードを差し込みます。
(☞ 70～71ページ)

❷ **CRTポート(DVI 29ピン)**
デジタルモニタを接続します。

DVIに対応していないディスプレイをご使用になる場合、付属のDVI変換アダプタをご使用ください。
LCDモデルをご購入のお客様は、LCD側にDVI変換アダプタが同梱されています。

❸ **マイク端子**
モノラルマイクを接続します。マイクからの音声をパソコンに取り込みます。(☞ 52ページ)

❹ **ライン入力端子**
外部オーディオ機器を接続し、音声をコンピュータに取り込みます。(☞ 53ページ)

❺ **ライン出力端子**
外部スピーカやヘッドホンを接続できます。

❻ **シリアルポート**
モデムなどシリアルポートを使う周辺機器を接続します。

❼ **キーボードポート**
付属のキーボードを接続します。

❽ **マウスポート**
付属のマウスを接続します。

❾ **電圧選択スイッチ**
本機の許容電圧を切り替えます。
日本では115VACに設定してください。
(ご購入時は、115VACに設定してあります。)

❿ **電源端子**
電源ケーブルを接続します。

⓫ **LANポート**
10BASE-T/100BASE-TXのLAN接続ができます。

⓬ **USBポート**
USB規格準拠の周辺機器を接続します。
(☞ 60ページ)

⓭ **パラレルポート**
プリンタなどのパラレルポートを使う周辺機器を接続します。

⓮ **MIDI/ジョイスティックポート**
MIDI機器などを接続します。

⓯ **FAX/モデムポート**
アナログ電話回線を接続します。
(☞ 94ページ)

2 電源を入れる

機器の接続を確認したら、電源を入れてみましょう。

初めて電源を入れたときは

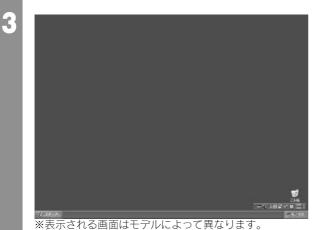
ご購入後初めて電源を入れたとき、または何らかの不具合によりリカバリCD-ROMを使用してWindows XPを再インストールした直後は、Windows XPセットアップが始まります。画面に表示される指示に従って、Windows XPセットアップを終了させてください。

1 **機器の接続を確認した後、ディスプレイ、パソコンの順に電源を入れます。**

2

しばらくすると、Windows XPセットアップが起動します。

3

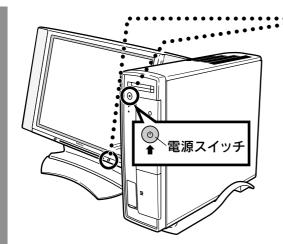
※表示される画面はモデルによって異なります。

画面に表示される指示に従って、Windows XPセットアップを終了させると、Windows XPのデスクトップ画面が表示されます。

参照

Windows XPセットアップの手順については付属の「Vシリーズファーストステップガイド」をご参照ください。

2回目以降に電源を入れたときは

Windows XPセットアップを終了させておけば、次に電源を入れたときに、そのままWindows XPのデスクトップ画面が表示されます。

1

機器の接続を確認した後、ディスプレイ、パソコンの順に電源を入れます。

複数のユーザーを登録している場合は、ユーザーの選択画面が表示されます。

ユーザーにパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。

パスワードが拒否された場合は、大文字と小文字を間違って入力していないか再度確認してください。Windows XPでは、Tarouとtarouは違う文字列として判別されます。

2

しばらくすると、Windows XPのデスクトップ画面が表示されます。

- パスワードを設定する場合、入力したパスワードはメモをとるなどして、忘れないようにしてください。
- リカバリCD-ROMをCD-ROMドライブに入れたままパソコンの電源をONにすると、リカバリの開始画面が表示されてしまいます。その場合、画面の指示に従い、再インストールを中断した後、リカバリCD-ROMを取り出してから再起動してください。

3 電源を切る

パソコンを使い終わったら、電源を切りましょう。
少し休憩する間などパソコンの消費電力を抑えたいときは、省電力機能(☞ 39～43ページ)を使用できます。

電源を切る

1

[スタート]ボタン→[終了オプション]を選択します。

チェック

いきなり電源スイッチを押して電源を切る動作を繰り返すと、Windows XPのシステムが壊れて、Windows XPの再インストールが必要になることがあります。電源を切るときは正しい手順で操作してください。

2

[電源を切る]をクリックします。

[スタンバイ]の使い方については、39～40ページをご参照ください。

アドバイス

キーボードを使ってWindowsを終了するには

⊞キーを押し、Uキーで[終了オプション]を選択します。【コンピュータの電源を切る】ダイアログが表示されたら、再度Uキーを押します。

3

自動的に本体の電源が切れます。
周辺機器の電源も必要に応じて切ります。

電源を切らずに再起動させる

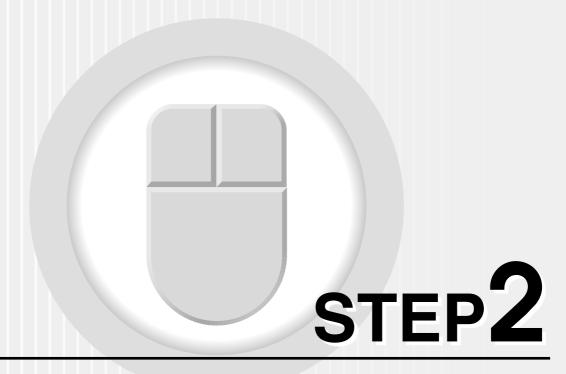
デバイスドライバのインストール(☞ 117ページ)が終了した後や、Windowsの動作が不安定(画面が乱れたり、画面が動かない)になったときは、次の手順で、Windowsを再起動させます。

1

【コンピュータの電源を切る】ダイアログから[再起動]をクリックします。

アドバイス

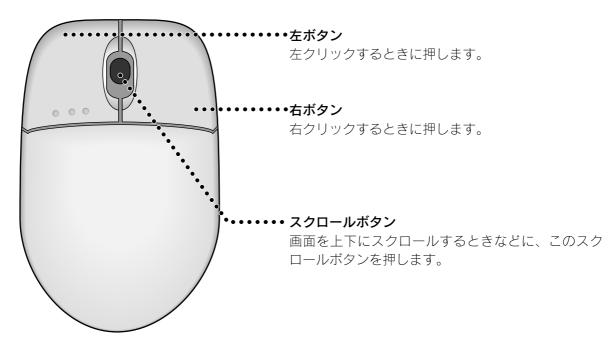
アプリケーションソフトの操作中に、マウスカーソルが動かなくなってしまったときなど、操作が続けられないときは、Ctrl＋Alt＋Deleteキーを同時に押すことで、特定のアプリケーションソフトを終了させることができます。

STEP2

使ってみよう

マウス、キーボード、CD-ROMドライブなど、本機が標準で持っている機能について、基本的な使い方および注意事項を説明しています。
また、スタンバイ、休止状態といった省電力機能の使い方についても説明しています。本機を初めて使う方は、必ずお読みください。

1 マウスを使ってみよう

Windowsでは、文字の入力以外、ほとんどの操作をマウスで行います。ここでは、マウスの基本操作を説明します。

マウスの名前とはたらき

※製品によっては形状が異なることがあります。

マウスを使用するときは、次のことに注意してください。

・平らな場所でお使いください。
・ホコリや消しゴムのカスなどのある場所では使わないでください。
・マウスのケーブルを引っかけないでください。
・マウスのケーブルを強く曲げたり、引っ張ったりしないでください。
・マウス裏面のネジを外さないでください。
・コネクタ内のピンに直接触れないでください。
・動きが悪くなってきたら、ボールとローラを乾いた綿棒などを使って掃除してください。

マウスの操作方法

クリックとダブルクリック

■クリック
マウスの左または右ボタンをすばやく押して離すことです。メニューやアイコン、ボタンなどを選択したり、ワープロなどで文字入力の位置を決めるのに使います。

■ダブルクリック
マウスの左または右ボタンを続けて２回すばやくクリックすることです。アイコンを選択してアプリケーションを起動するときなどに使います。

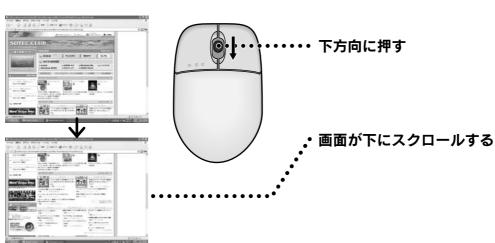
ドラッグ＆ドロップ

ドラッグとは、アイコンなどをクリックして、選んだままの状態で別の場所に動かすことです。
ドロップとは、ドラッグして動かしたアイコンなどを、目的の場所に置くことです。

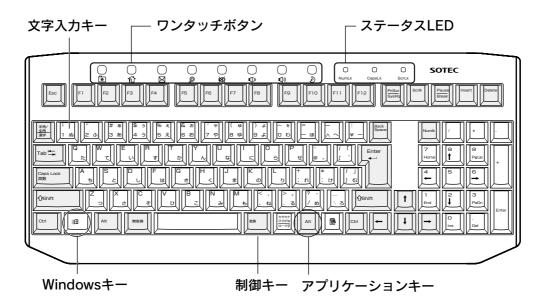
左ボタンを押したまま動かします。

「ごみ箱」アイコンの上でボタンを離すとドロップされ、ごみ箱の中に入ります。

スクロール

マウスのスクロールボタンを上下に押すことで、Windowsの画面をスクロールできます。

2 キーボードを使ってみよう

キーボードは、文字や記号を入力したりパソコンへ指示をする役目をもっています。ここでは、このキーボードの各キーの名前や機能について説明します。

キーはその機能によって、役割が大きく5つに分かれます。
ここでは、便宜上、キーボードにアミをかけて説明していますが、製品のキーボードは色分けされていません。

Windowsキー

単独で押すとWindows XPの「スタート」メニューを表示します。次のキーと合わせて押すと、Windows XPの代表的な機能がすぐに使えます。

キー	機能
[Windows]+[F1]	Windows XPの「ヘルプとサポートセンター」を表示
[Windows]+[M]	ウィンドウの最小化
[Windows]+[Tab]	タスクバーに表示されているボタンの切り替え
[Windows]+[R]	【ファイル名を指定して実行】ダイアログを表示
[Windows]+[E]	マイコンピュータを起動
[Windows]+[F]	ファイルとフォルダ検索画面を起動
[Windows]+[Pause]	【システムのプロパティ】ダイアログを表示
[Windows]+[Ctrl]+[F]	コンピュータの検索画面を起動

ワンタッチボタン

ワンタッチボタンを押すと、Windows XPのアプリケーションソフトがダイレクトで起動します。

アプリケーションキー

マウスの右ボタンに相当します。使用するアプリケーションによって動作が異なります。お使いのアプリケーションソフトのマニュアルをご参照ください。

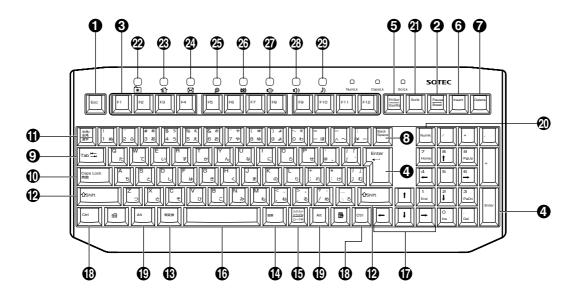
制御キー(薄いアミ部分)

文字入力キーと組み合わせて使うキー、入力位置を決めるキー、パソコンに対してコマンド(命令)を送るキーなどです。
これらのキーだけを使って文字を直接入力することはできません。

文字入力キー

主に、アルファベットやひらがな、カタカナ、数字、記号などを入力するためのキーです。
1つのキーに2つ以上の文字が割り当てられており、[CapsLock][Shift][NumLk][ひらがな][カタカナ]の各キーと組み合わせて、目的の文字が入力できます。

各キーの機能

ここでは、キーボードの各キーの名前と機能を説明しています。

中止や中断させるコマンド(命令)を送るときに使います。

❶ Esc(エスケープ)キー
設定を取り消したり、実行を中止します。

❷ Pause Break(ポーズ・ブレーク)キー
実行されているものを中断したり、ブレーク信号を送ります。

設定されている機能を呼び出すときに使います。

❸ ファンクションキー
F1からF12までの12個のキーにそれぞれ別の機能やコマンド(命令)が割り付けられています。キーを押したときの動作はアプリケーションにより異なります。

コマンド(命令)や設定されたものを決定するときに使います。

❹ Enter(エンター)キー
通常、あるコマンド(命令)の実行を決定したり、設定されたものを確定させる場合に押します。また、文字を入力しているときは、このキーで改行できます。

画面のハードコピーをとったり、Windows XPの画面を取り込むときに使います。

❺ PrtScr(プリントスクリーン)キー
表示されている画面を取り込んでクリップボードに転送します。

文字を編集するときに使います。

❻ Insert(インサート)キー【ロックされます】
文字入力のモードを切り替えます。1回押すごとに、カーソル位置にある文字の間に挿入する「インサートモード」と、カーソル位置の文字に上書きする「タイプオーバーモード」が切り替わります。

❼ Delete(デリート)キー
カーソル位置から右側の文字を削除します。カーソル位置は変わりません。

❽ Back Space(バックスペース)キー
カーソル位置から、左側の文字を削除します。カーソル位置は左に動きます。

アドバイス

ロック状態について

キーには、1回押すごとに状態が固定され、ロック状態になるキーと、固定されずに押したときだけ機能するキーの2通りあります。
ロックされるキーの中でも右の3種類のキーは、ロック状態になるとキーボード上のステータスLEDが点灯します。

❾ Tab(タブ)キー
文字を入力しているときに押すと、タブが挿入されカーソルが右に移動します。Shiftと同時に押すと、一つ前のタブ位置まで戻ります。また、表計算やデータベースなどのアプリケーションでは、次の項目への移動などに使われます。

文字入力キーと組み合わせて、文字を入力するときに使います。

❿ CapsLock(キャップスロック)・英数キー【ロックされます】
アルファベットを入力するときの文字種を切り替えます。Shiftキーと同時に1回押すごとに、「大文字モード」と「小文字モード」が切り替わります。また、ひらがな/カタカナモードからアルファベットや数字を入力する英数モードに切り替えるときにも使います。

⓫ **半角/全角キー【ロックされます】**
文字を入力しているときの文字種を切り替えます。Windows XPの日本語入力システムMicrosoft IMEでは、1回押すごとに「日本語入力モード」がオン、オフになります。また、Altキーと同時に押すと「日本語入力モード」になります。

⓬ Shift(シフト)キー
他のキーと同時に押すことで別の機能を実行したり、実行方法を一時的に変えたりすることができます。例えば、「大文字モード」で文字を入力しているときに、アルファベットキーと同時に押すと、小文字で入力することができます。

空白を入れたり、漢字に変換するときに使います。

⓭ **無変換キー**
日本語入力システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換したくない場合に押すと、入力モードが変わります。

⓮ **変換キー**
日本語入力システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換するときに押します。

⓯ **カタカナ/ひらがなキー【ロックされます】**
「カタカナモード」と「ひらがなモード」を切り替えます。「カタカナモード」のときはこのキーのみ、「ひらがなモード」のときはShiftキーと同時に押すと切り替わります。また、Ctrl+Shiftキーと同時に押すとカナキーのON/OFFが切り替えることができます。

⓰ **スペースキー**
文字を入力しているときに押すと、スペース(空白)が入ります。

カーソルを動かしたりページをめくるのに使うときに使います。

⓱ **カーソルキー**
キーに表記されている矢印の方向に、カーソルが移動します。

他のキーと組み合わせて機能を実行するときに使うときに使います。

⓲ Ctrl(コントロール)キー
文字入力キーや、他の制御キーと組み合わせて使うことにより、特定の動作ができます。

⓳ Alt(オルト)キー
オルタネートキーともいい、文字入力キーや、他の制御キーと組み合わせて使うことにより、特定の動作ができます。

⓴ NumLk(ニューメリックロック)キー【ロックされます】
ロックすると、テンキーをテンキーとして動作させます。ロックを外すと特定の動作キーとして動作します。

㉑ ScrLk(スクロールロック)キー【ロックされます】
使用しているソフトにより動作は異なりますが、通常はカーソルキーの動きを変えることができます。

ワンタッチでアプリケーションを起動するときに使います。

㉒ **お気に入りキー**
インターネットエクスプローラーの使用時に押すと、お気に入りの画面が表示されます。

㉓ **インターネットキー**
Internet Explorerが起動します。

㉔ **イーメールキー**
Outlook Expressが起動します。

㉕ **エクスプローラキー**
エクスプローラが起動します。

㉖ **ミュートキー**
パソコンのスピーカがミュート(消音)の状態になります。

㉗ **ボリュームダウンキー**
1回押すごとに、パソコンから出力される音量が下がります。

㉘ **ボリュームアップキー**
1回押すごとに、パソコンから出力される音量が上がります。

㉙ SLEEP(スリープ)キー
省電力機能（☞ 39ページ)が働きます。
省電力の状態から、元の状態に復帰させるには、キーボードのShiftキーを押します。

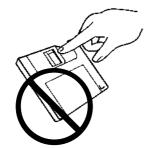
3 フロッピーディスクを使ってみよう

本機には、3.5インチフロッピーディスクドライブがあります。ここでは、フロッピーディスクを取り扱うときの注意と、ドライブにセットする方法について説明します。

フロッピーディスクを使うときの注意

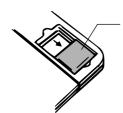
3.5インチフロッピーディスクは、入力したデータなどを保存するのに使う大切なものです。取り扱いにあたっては次の点に十分注意してください。
また、フロッピーディスクを使わない場合は、パソコンの電源をOFFにする前に必ずフロッピーディスクドライブから取り出して、適切な場所に保管してください。

テレビやモータのような、磁気を発生する物のそばに置かないでください。

特に直射日光のあたる車の中や、高温の場所に置かないでください。また、湿度の高いところに置かないでください。

内部の記憶メディアに傷を付けるおそれがあるため、シャッターを開けないでください。

ラベルは、正しい位置(一段へこんでいます)にお貼りください。また、別のラベルを貼るときは重ねて貼らず、前のラベルをはがしてください。

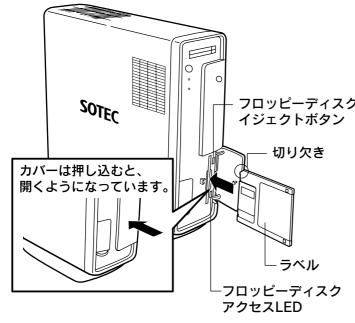
データを書き込み禁止にする

書き込み可能状態

書き込み禁止状態

フロッピーディスクには、間違って保存しているデータを消したり、上書きされないように、書き込みを禁止(ライトプロテクトといいます)することができます。
ライトプロテクトを行うにはフロッピーディスクの裏側(金属の円盤が見えるほう)の一方のカドにあるライトプロテクトノッチを動かします。

■ライトプロテクトノッチが「上側」になっていると、フロッピーディスクをフォーマットしたり、ファイルの書き込みや消去などができます。

■ライトプロテクトノッチが「下側」になっていると(四角い穴が開いている状態)、フロッピーディスクのデータを消去したり、上書きしたり、追加することはできません。

フロッピーディスクの出し入れ

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットする場合は、切り欠きのある角を上側にし、シャッター側を先にして、フロッピーディスクドライブの中に挿入します。

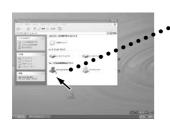
フロッピーディスクが正しくセットされると、フロッピーディスクイジェクトボタンが飛び出ます。

フロッピーディスクを取り出すときは、フロッピーディスクイジェクトボタンを押します。

フロッピーディスクが少し飛び出し、取り出せるようになります。

フロッピーディスクを取り出すときは、フロッピーディスクアクセスLEDが点灯していないことを確認してから取り出してください。点灯しているときに取り出すと、フロッピーディスクのデータが壊れる恐れがあります。

ファイルをフロッピーディスクにコピーする

ファイルをフロッピーディスクにコピーするには、次の2通りの方法があります。

[マイコンピュータ]の中にある[3.5インチFD]アイコンに、ファイルをドラッグアンドドロップします。

ファイルを選択した状態で右クリックして、表示されるメニューから、「送る」→「3.5インチFD」を選択します。

操作後、フロッピーディスクにファイルがコピーされます。

本機のフロッピーディスクドライブは、「3.5インチ2HDタイプ」と「3.5インチ2DDタイプ」のフロッピーディスクが使用できます。それ以外のフロッピーディスクは使用できません。

2HDと2DD

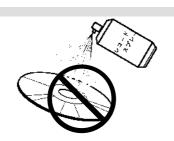
2HDは「両面高密度倍トラックタイプ」、2DDは「両面倍密度倍トラックタイプ」の略です。2HDには1.44MBの、2DDには720KBのディスク容量があります。

STEP2 使ってみよう

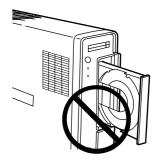
4 CD-ROMを使ってみよう

ここでは、CD-ROMを使う方法について説明します。

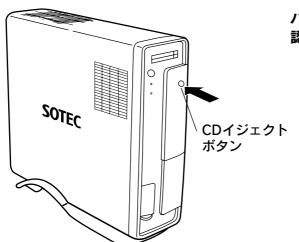
CD-ROMを使うときの注意

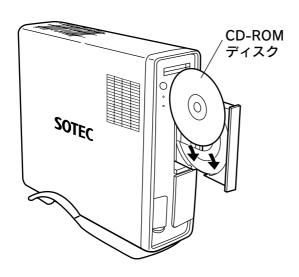
CD-ROMドライブやCD-ROMディスクの取り扱いにあたっては次の点に十分注意してください。また、CD-ROMディスクを使わない場合は、必ず、パソコンの電源をOFFにする前にドライブから取り出して、適切な場所に保管するようにしてください。

清掃するときは、レコード用クリーナーやベンジン、シンナーではなく、必ずCD専用のクリーナーを使ってください。また、レンズクリーナーは乾式のものを使用してください。湿式は汚れを増長させますので絶対に使わないでください。

記録面にラベルを貼ったり、ペンなどで字を書かないでください。

強い衝撃を与えたり表面にキズを付けないでください。また、ゴミやホコリの多い場所に置かないでください。読み込みエラーの原因となります。

トレイを開けたままにしておかないでください。内部にゴミやホコリが入り込んで故障の原因になります。

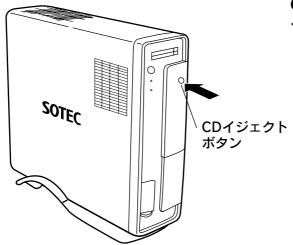
CD-ROMディスクの出し入れ

1

パソコン本体の電源がONになっているのを確認してから、CDイジェクトボタンを押します。

2

CD-ROMの記録面をトレイ側に向けて、トレイにCD-ROMディスクを確実に固定します。

3

トレイを押し込みます。

4

CD-ROMディスクを取り出すときは、再度CDイジェクトボタンを押します。

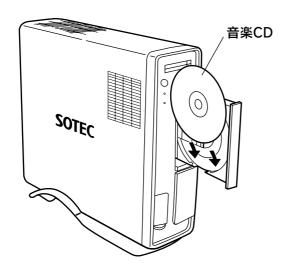
音楽CDを聴く

音楽CDをCD-ROMドライブに入れると、自動的にWindows Media Playerが起動し、音楽CDの再生が始まります。自動的に再生が始まらない場合は、次の手順で再生してください。

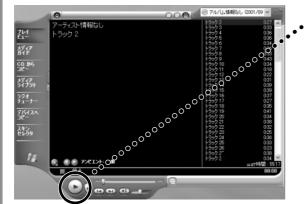
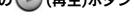
1

[スタート]ボタン→[Windows Media Player]を選択します。

「Windows Media Player」が起動します。

2

CD-ROMドライブに音楽CDのディスクを入れます。

3

4

Windows Media Playerの(再生)ボタンをクリックします。

音楽CDを再生します。

をクリックすると、Windows Media Playerを終了します。

参照

Windows Media Playerの使い方は、Windows Media Playerのヘルプをご参照ください。

アドバイス

CD-ROMディスクの規格について

現在市販されているCD-ROMディスクには次のような規格があり、本機ではこれらすべての規格を利用できます。

■CD-DA、CD-Extra(エキストラ)

CD-DAは音楽用のCDです。音楽CDをDVD-RWドライブにセットし、Windows XPの「Windows Media Player」を起動して音楽を聞きます。

CD-Extraは音楽用CDですが、パソコン用のソフトや、画像、音声ファイルなどのデータも記録されています。

■CD-ROM XA

パソコンのアプリケーションソフトや、画像、音声ファイルなど大容量のデータが記録されています。読み出しだけで記録はできません。現在使われている多くのCD-ROMは、この規格に基づいています。

■Video CD

MPEG-1方式の動画を記録する規格です。Windows Media Playerで再生します。

■Photo(フォト) CD

1枚のディスクに100枚ものフルカラー静止画像を記録できる規格です。記録は専門の業者に依頼しなければなりません。また、Photo CDを見るには、Photo CD対応のソフトウェアが必要です。

■CD-R

一度だけ任意のデータの書き込みが可能なCDです。書き込めるデータ量はメディアによりさまざまです。

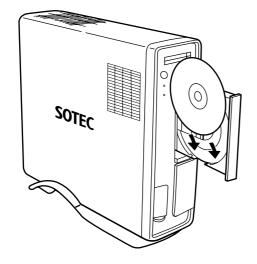
■CD-RW

何度でも任意でデータの書き換えが可能なCDです。書き込めるデータ量はメディアによりさまざまです。

データディスクを作成する

※CD-R/RW ドライブモデル、
コンビネーションドライブ、
DVD-RW ドライブモデルのみ

本機ではCD-R、CD-RW、DVD-R、DVD-RWディスクを使用して、音楽CD、データディスクが作成できます。
CD-R、DVD-Rディスクは一度しか使用できませんが、CD-RW、DVD-RWディスクは上書きが可能です。
DVD-R、DVD-RWディスクはDVD-RWドライブモデルのみ使用できます。
音楽CD、データディスクの作成には、付属のDrag'n Drop CDを使用します。

チェック

Drag'n Drop CD を使用するには、別途インストール作業が必要です。

1 **CD-ROM ドライブに書き込み可能なディスクを入れます。**

2 **[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[Drag'n Drop CD]→[Drag'n Drop CD]の順に選択します。**

Drag'n Drop CDが起動します。

参照

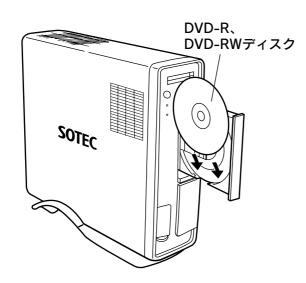
Drag'n Drop CDの使い方については、Drag'n Drop CDのオンラインヘルプをご参照ください。

DVDビデオを作成する

※DVD-RW ドライブモデルのみ

DVDビデオの作成は、Ulead DVD MovieWriter SEを使用します。
DVD-RもしくはDVD-RWディスクをDVD-RWドライブに入れ、次の手順で「Ulead DVD MovieWriter SE」を起動させてください。

チェック

Ulead DVD MovieWriter SEを使用するには、別途インストール作業が必要です。

1 **DVD-RWドライブにDVD-RもしくはDVD-RWディスクを入れます。**

2 **[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[Ulead DVD MovieWriter SE]→[Ulead DVD MovieWriter SE]の順に選択します。**

[Ulead DVD MovieWriter SE]が起動します。

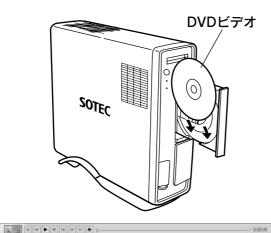
参照

Ulead DVD MovieWriter SEの使い方については、「Ulead DVD MovieWriter SE」のオンラインヘルプをご参照ください。

DVDビデオを見る(TideoDVD)

※コンビネーションドライブモデル、
DVD-RWドライブモデルのみ

DVDビデオの再生は、TideoDVDを使用します。DVDビデオのディスクをCD-ROMドライブに入れると、自動的にTideoDVDが起動し、DVDビデオの再生が始まります。自動的に再生が始まらない場合は、次の手順で再生します。

チェック

TideoDVDを使用するには別途インストール作業が必要です。

1

CD-ROMドライブにDVDビデオのディスクを入れます。

2

[すべてのプログラム]→[SOTEC]→[TideoDVD]→[TideoDVD]の順に選択します。

「TideoDVD」が起動します。

3

TideoDVDの再生ボタンをクリックします。

DVDビデオが再生されます。

アドバイス

DVDの規格について

現在市販されているDVDには次のような規格があり、コンビネーションドライブモデル、DVD-RWドライブモデルではこれらの規格を利用できます。

■DVD-ROM

パソコンなどで作成されたデータを記録するために作られたもので、DVDメディア片面(一層記録)に最大4.7GBのデータが記録されています。

■DVD-Video(DVDビデオ)

DVD-Video規格で収録された映画タイトルなどです。コンビネーションドライブモデルには、DVDビデオを再生するための「TideoDVD」がインストールされています。

DVDの書き込みメディアについて

DVDの書き込みメディアには、さまざまな規格があり、DVD-RWドライブモデルでは次の規格を使用できます。

■DVD-R

一度だけ任意のデータの書き込みが可能なDVDです。書き込めるデータ量は最大で片面4.7GBです。

■DVD-RW

何度でも任意でデータの書き換えが可能なCDです。書き込めるデータ量は最大で片面4.7GBです。

チェック

・DVD+RW規格のメディアは使用できません。
・コンビネーションドライブモデルに搭載されているドライブはROM(Read Only Memory)です。DVDディスクから読み込みはできますが、DVDディスクへの書き込みは一切できません。
・海外で販売されているDVDビデオの中には、本機では再生できないものがあります。

5 サウンド機能を使ってみよう

本機には、サウンド機能が搭載されており、音声を入出力する端子などが用意されています。ここではそれらの使い方を説明します。

スピーカの音量を調整する

スピーカの音量は次のように調整します。

Windowsでスピーカの音量を調整するとき

1 タスクバーの アイコンを左クリックします。

2 つまみをドラッグして調整します。

「ミュート」をチェックすると音声が消えます。

タスクバーに[スピーカ]アイコンを表示させるには

アドバイス

[スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[サウンド、音色、およびオーディオデバイス]→[サウンドとオーディオデバイス]を選択すると、プロパティの画面が表示されます。[音量]タブから「タスクバーに音量アイコンを配置する」をチェックし、「適用」ボタンを選択します。

Windowsで左右のバランスや音源ごとに調整するとき

1 タスクバーの アイコンを右クリックします。

2 「ボリュームコントロールを開く」を左クリックします。

3 各音量のつまみをドラッグして調整します。

キーボードを使って調整するとき

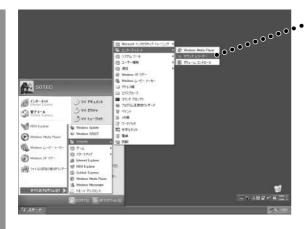
ボリュームダウンキー
：スピーカからの音が小さくなります。
ボリュームアップキー
：スピーカからの音が大きくなります。

アドバイス

【サウンドとオーディオデバイスのプロパティ】ダイアログの[スピーカー音量]タブ画面で[スピーカーの音量]ボタンをクリックすると、ステレオスピーカの左右の音量を別々に調整できます。

録音をする

オーディオ機器などから音声を録音するときは、Windows XPの「サウンドレコーダー」を使用します。録音した音声は、ファイルとして本機のハードディスクに保存できます。

1

「スタート」ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[エンターテイメント]→[サウンドレコーダー]の順に選択します。

【サウンドレコーダー】ダイアログが表示されます。

2

Sound - サウンド レコーダー
ファイル(F) 編集(E) エフェクト(S) ヘルプ(H)
位置: 0.00 秒
長さ: 0.00 秒

録音を始めるときは、[●]ボタンをクリックします。

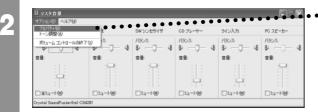
録音の音量を調整するには

本機に入力される音量が小さすぎたり、大きすぎたりするときは、Windows XPのボリュームコントロールで調整します。

1

タスクバー上にある をダブルクリックします。

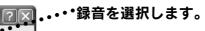
【マスタ音量】ウィンドウが表示されます。

2

マスタ音量の[オプション]から、[プロパティ]を選択します。

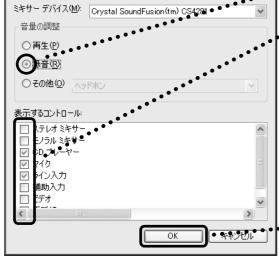
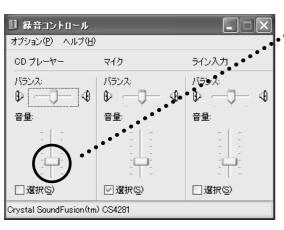
3

4

5

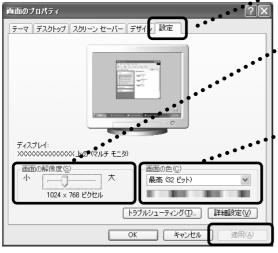
録音を選択します。

音量を調整するデバイスにチェックマークをつけます。

[OK]ボタンをクリックします。

6

選択したデバイスのスライダをドラッグして、音量を調整します。

6 画面の解像度を変える

ディスプレイの解像度を変更して、より広い領域でWindowsを表示したり、フォントの大きさを変更して、文字をより見やすく表示させることができます。ここでは本機の解像度やフォントの大きさといった、画面の設定の変更方法について説明します。

解像度や色数を変更する場合

1. **デスクトップ上で右クリックして表示されるメニューから、[プロパティ]を選択します。**
   【画面のプロパティ】ダイアログが表示されます。
2. **[設定]タブを選択します。**
3. **を左右にスライドさせ、画面の解像度を選択します。**
   初期設定は「1024×768ピクセル」です。
4. **ボタンをクリックし、画面の色(表示する色数)を選択します。**
   初期設定は「中(16ビット)」です。
5. **[適用]ボタンをクリックします。**
6. **変更を確認するダイアログボックスが表示されるので、[はい]ボタンをクリックします。**

フォントサイズを変更する場合

1. **【画面のプロパティ】ダイアログで[デザイン]タブを選択します。**
2. **をクリックし、フォントの大きさを選択します。**
3. **[適用]ボタンをクリックします。**
   しばらくするとフォントサイズが変更されます。

アプリケーションソフトによっては、インストール時などに自動的に画面設定が変更される場合があります。アプリケーションソフトに適した画面設定の変更方法については、アプリケーションソフトの取扱説明書をよくお読みください。

7 省電力機能を利用する

省電力機能の使用方法を説明します。

省電力機能について

本製品には 2種類の省電力機能があります。
使用状況に応じてご利用ください。

スタンバイ

ハードディスクドライブ、ディスプレイの電力消費を最小にする機能です。
スタンバイ機能は、少しの間席をはずすときなどに、電源の消費を抑えるのに役立ちます。

休止状態

作業中のデータをハードディスクに保存して、電源を切る機能です。
次に起動するときに、作業を中断する前の状態で立ち上がります。

スタンバイの設定

スタンバイに入るには次の３つの方法があります。

- 「スタート」メニューからスタンバイに入る
- 電源スイッチでスタンバイに入る
- 自動的にスタンバイに入る

「スタート」メニューからスタンバイに入る方法

1 **「スタート」ボタン→[終了オプション]をクリックします。**

2 **[スタンバイ]を選択します。**

これでスタンバイに入ります。
スタンバイから元の状態に戻すには、本機の電源スイッチ、またはキーボードのSLEEPキーを押します(ユーザー名を選択する必要があります)。

電源スイッチでスタンバイに入る方法

1 [スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[電源オプション]の順に選択します。

2 [詳細設定]タブをクリックします。

3 「電源ボタン」欄の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「スタンバイ」に設定します。

4 [適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。

これで本機の電源スイッチを押すと、スタンバイに入ります。
スタンバイから元の状態に戻すには、本機の電源スイッチ、またはキーボードのSLEEPキーを押します(ユーザー名を選択する必要があります)。

自動的にスタンバイに入る方法

1 [スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[電源オプション]の順に選択します。

2 [電源設定]タブをクリックします。

3 「電源設定」欄を「自宅または会社のデスク」に設定します。

4 「システムスタンバイ」欄にスタンバイに入るまでの時間を設定します。

5 [適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。

設定した時間、本機を操作しないでいると、自動的にスタンバイに入ります。
スタンバイから元の状態に戻すには、本機の電源スイッチ、またはキーボードのSLEEPキーを押します(ユーザー名を選択する必要があります)。

休止状態の設定

休止状態に入るには次の３つの方法があります。

・「スタート」メニューから休止状態に入る
・電源スイッチで休止状態に入る(初期設定)
・自動的に休止状態に入る

「スタート」メニューからスタンバイに入る方法

1 **[スタート]ボタン→[終了オプション]をクリックします。**

2 **Shift キーを押すと[スタンバイ]が[休止状態]にかわるので、Shift キーを押しながら[休止状態]を選択します。**

コンピュータの電源を切る
休止状態(H)　電源を切る(U)　再起動(R)
キャンセル

これで休止状態に入ります。
休止状態から元の状態に戻すには、本機の電源スイッチを押します(ユーザー名を選択する必要があります)。

電源スイッチで休止状態に入る方法

1 [スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[電源オプション]の順に選択します。

2 [休止状態]タブをクリックします。

3 「休止状態を有効にする」にチェックを入れます。

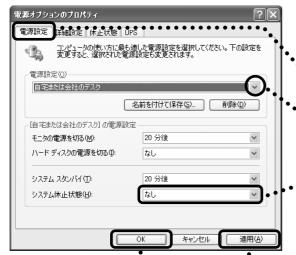
4 [適用]ボタンをクリックします。

5 [詳細設定]タブをクリックします。

6 「電源ボタン」欄の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「休止状態」に設定します。

7 [適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。

これで、本機の電源スイッチを押すと、休止状態に入ります。
休止状態から元の状態に戻すには、本機の電源スイッチを押します(ユーザー名を選択する必要があります)。

自動的に休止状態に入る方法

1 **[スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[電源オプション]の順に選択します。**

2 **[電源設定]タブをクリックします。**

3 **「電源設定」欄を「自宅または会社のデスク」に設定します。**

4 **「システム休止状態」欄に休止状態に入るまでの時間を設定します。**

5 **[適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。**

設定した時間、本機を操作しないでいると、自動的に休止状態に入ります。
休止状態から元の状態に戻すには、本機の電源スイッチを押します(ユーザー名を選択する必要があります)。

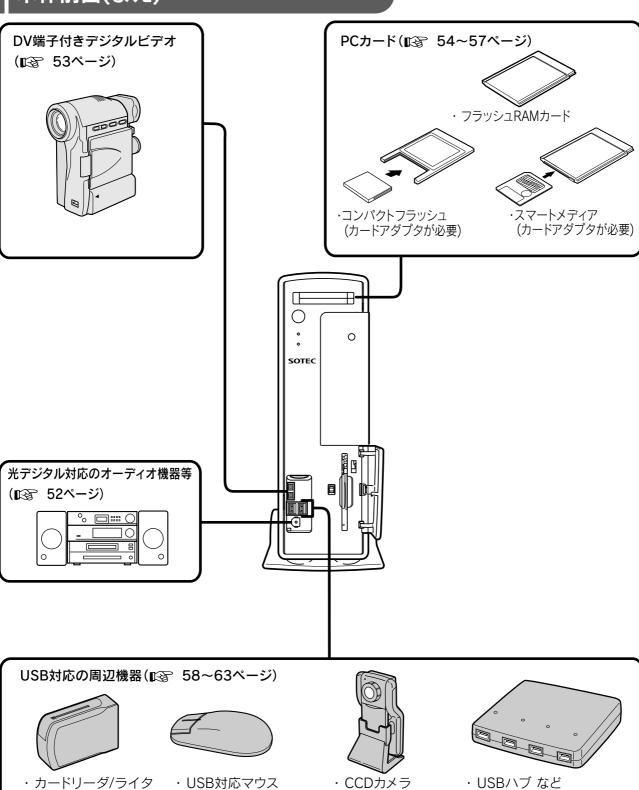
STEP3

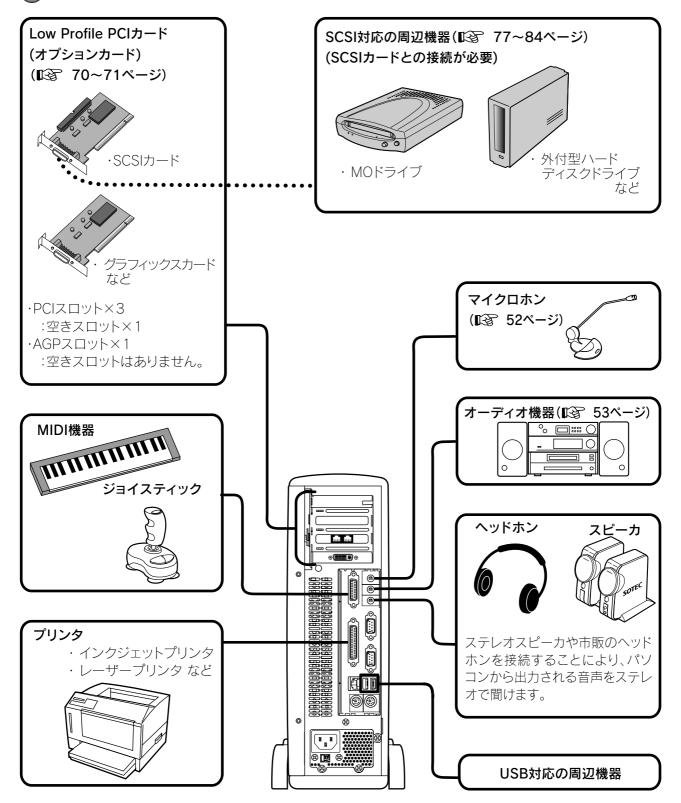
周辺機器を使いこなす

プリンタやスキャナなど、PC STATIONと接続できる周辺機器の紹介と、接続の方法や注意事項について説明しています。
さまざまな周辺機器と接続することで、PC STATIONをより充実して使うことができます。ぜひ、お読みください。

1 使用できる周辺機器

本機には、さまざまな周辺機器が接続できます。次にその一例を紹介します。

本体前面(まえ)

本体背面(うしろ)

標準モデル

2 周辺機器を取り付ける前に

ここでは周辺機器を取り付ける前に、まず確認したり、作業しなければならないことを説明します。

取り付けは電源をOFFにしてから

ケーブル類や、周辺機器を取り付けるときは、本機の電源をOFFにし、電源ケーブルをACコンセントから取り外します。電源ケーブルが接続されたまま周辺機器を取り付けると、本機を壊したり、感電してしまう恐れがあります。

PCカード、USB対応の機器は、パソコンの電源をONにしたまま、取り付けや取り外しができます。

1

[スタート]ボタン→[終了オプション]を選択します。

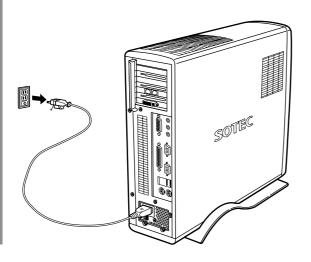
【コンピュータの電源を切る】ダイアログが表示されます。

2

[電源を切る]を選択します。

電源がOFFになります。

3

4

電源ケーブルを取り外します。

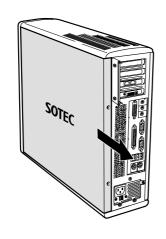
周辺機器を取り付けます。

本体内部の機器を取り付けたり、取り外したりするときは、金属のへりでケガをしないよう、手袋をして作業をするなど十分に気を付けてください。

体の静電気を取り除いてください

基板がむき出しになっているメモリなどは、静電気に弱く、帯電した手で触ると壊れてしまう恐れがあります。これらの機器を取り付ける前には、ドアのノブなど、身近な金属に触れて、帯電されている静電気を取り除いてください。

取扱説明書をよく読んでください

ユーザーズガイドをよく読んでください

オプションカードなど周辺機器の取り外しや、取り付けを間違うと、機器を壊してしまう恐れがあります。周辺機器を取り付ける前には本書をよくお読みください。

周辺機器に付属の取扱説明書をよく読んでください

周辺機器に付属の取扱説明書には、取り付け方法や、取り付けた後に必要となるソフトウェアやハードウェアの設定方法が詳しく書かれています。

周辺機器を取り付ける前には、必ず周辺機器の取扱説明書をよく読み、必要な機器、および必要な設定ファイル(デバイスドライバなど)を理解し、これから始める拡張の作業に備えましょう。

プラグアンドプレイについて

Windows XPには、周辺機器を取り付けるだけで、すぐに使用できる状態に設定する「プラグアンドプレイ」という機能があります。
プラグアンドプレイを実現するには、周辺機器に対応したデバイスドライバがWindows側で用意されている必要があります。
用意されていない場合は、Windowsのウィザード機能を使って、デバイスドライバをWindowsにインストールします。

対応したデバイスドライバがすでにWindowsにある場合

周辺機器に対応したデバイスドライバが、すでにWindows側で用意されている場合は、周辺機器を取り付けるだけで、すぐに使える状態になります。

1

接続するだけで周辺機器が使えるようになります。

対応したデバイスドライバがWindowsにない場合

周辺機器に対応したデバイスドライバが、Windowsにない場合は、周辺機器に付属のCD-ROMディスクなどに収録されているデバイスドライバを用意し、Windowsのウィザード機能を使って、デバイスドライバをWindowsにインストールします。

プラグアンドプレイに対応した周辺機器でも、場合によっては、設定が自動で行われない場合があります。(☞ 113ページ)

1
2

周辺機器を取り付けた後に、電源をONにします。

【新しいハードウェアの検索ウィザードの開始】ダイアログが表示されます。

[次へ]ボタンをクリックします。

3

表示される指示に従って操作を行います。

デバイスドライバが正常にインストールされたことを示すメッセージが表示されたら、設定は終了です。

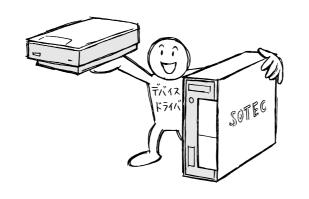
4

[完了]ボタンをクリックします。

これで、設定は無事終了しました。

プラグアンドプレイに対応していない周辺機器の場合

プラグアンドプレイに対応していない周辺機器の場合、デバイスドライバの組み込みやリソースの設定は自分で行う必要があります。また、周辺機器側のディップスイッチなどを変更する必要があります。周辺機器の取扱説明書などをよく読み、設定を行ってください。

アドバイス

デバイスドライバとは

周辺機器を使うときは、デバイスドライバという専用ソフトウェアが必要になる場合があります。デバイスドライバは、パソコンが周辺機器をコントロールするときに使う大切なソフトウェアです。デバイスドライバは、あらかじめ本機のWindows XPに付属されているものと、周辺機器に付属のもの(フロッピーディスクやCD-ROMディスクで提供されています)があります。また、周辺機器メーカのホームページから最新のものを入手することもできます。
最新のデバイスドライバを入手することで、周辺機器の機能を最大限に引き出すことができます。

3 AV機器と接続する

ここでは本製品と接続できるAV機器の紹介と接続方法を説明します。

光デジタル対応の機器と接続する

光デジタル入力端子を装備しているオーディオ機器と接続することができます。
光デジタルケーブルを利用した、ノイズの少ないクリアなサウンドが楽しめます。

MDレコーダで音声を録音するには

本製品の光デジタル出力サンプリングレートは48KHzに固定されています。MDレコーダの機種によっては対応していない場合があります。録音するときは、サンプリングレート48KHz対応の機種を使用してください。
また、録音したものは個人で楽しむほかは、著作権法により、著作者に無断で使用することはできません。

STEP3
周辺機器を使いこなす

1

光デジタル(SPDIF)
出力端子(角型)

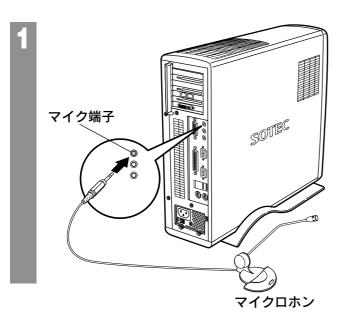
光デジタル対応の
オーディオ機器

光デジタルケーブルを使用して、本機の光デジタル(SPDIF)出力端子(角型)とオーディオ側の光デジタル入力端子を接続します。

- 光デジタルケーブルはお近くの電器店でお求めください。
- 光デジタル対応のオーディオ機器にはMDレコーダのほかにスピーカやオーディオコンポなどがあります。
- 本機側に接続する光デジタルケーブルのプラグは、角型をご使用ください。

マイクロホンと接続する

市販のマイクロホンを接続して、マイクロホンから自分の声を録音できます。

1

マイクロホンは背面のマイク端子に接続します。

マイクロホンはモノラルタイプのミニプラグ付マイクロホンを、電器店などで購入してください。

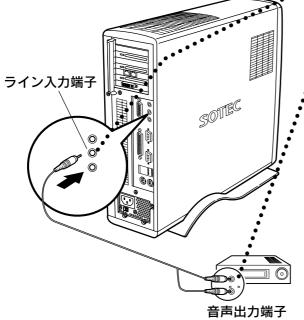
ハウリングの防止方法

スピーカにマイクロホンを近づけると、スピーカとマイクロホンが共振し、キーンという音が出ることがあります。これをハウリングといいます。ハウリングは、マイクロホンをスピーカから遠ざけるか、入力レベルを小さくする(ボリュームコントロールで調整)ことで防ぐことができます。

オーディオ機器と接続する

オーディオ機器と接続することで、オーディオ機器からの音をスピーカから出力したり、本機に録音することができます。

1

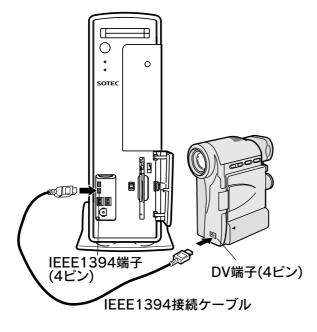
2

ステレオミニプラグ付きオーディオケーブルを、本機のライン入力端子に接続します。

オーディオケーブルのもう一方のプラグを、オーディオ機器側に接続します。

ミニプラグ付きのオーディオケーブルは、電器店などで購入してください。

デジタルビデオと接続する

本機のIEEE1394端子(4ピン)と、DV端子を持つデジタルビデオを接続して映像および音声を取り込んだり、映像および音声をデジタルビデオに出力できます。

1

本機のIEEE1394端子(4ピン)と4ピンのDV端子を持つデジタルビデオを、市販のIEEE1394接続ケーブルで接続します。

IEEE1394端子は、DV端子とも呼ばれています。

4 PCカードを使う

PCカードスロットには、市販のPCカードを差し込んで使用することができます。ここではPCカードの接続方法について説明します。

PCカードとは

PCカードスロットには、市販のPCカードを差し込んで使用することができます。ここではPCカードの接続方法について説明します。

カード規格について

PC Card Standardは、ノートタイプのコンピュータに使用するICカードを、コンピュータのメーカが異なっても、共通で使用できるように定められた統一規格です。規格統一されたカードは、一般に「PCカード」と呼ばれています。

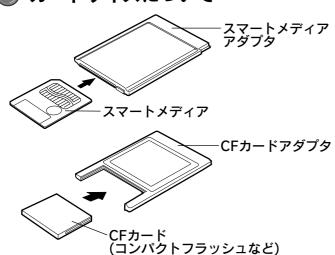
PCカードスロットに様々な種類のカードを装着することでパソコンの機能を拡張できます。

カードには、メモリ、ハードディスク、モデム、SCSIインターフェイス、LANなど様々な種類があります。

PCカードを使うには、本製品に、PCカードを認識させるためのデバイスドライバを組み込む必要があります。
デバイスドライバは、あらかじめWindowsで用意されているものを使用する場合と、PCカードに付属のものを使用する場合があります。
どちらのデバイスドライバを使用するかは、PCカードの取扱説明書をご覧ください。

CardBus規格について

CardBusとはPCカードスロットと互換性を持ちながらPCIバスに対応しているスロットのことで、高速なデータ転送が可能です。本製品のPCカードスロットはCardBusをサポートしています。

カードサイズについて

PCカードには、現在、TYPE Ⅰ(厚さ3.3mm)、TYPE Ⅱ(厚さ5.0mm)、TYPE Ⅲ(厚さ10.5mm)の3種類のタイプがあります。

本製品では、TYPE Ⅱのカードを2枚装着することができます。

スマートメディアやCFカードを装着する場合は、別売のアダプタを使用してください。

PCカードの差し込み

ここでは、デジタルカメラの画像の記憶媒体として使用されるコンパクトフラッシュを例に、本機に差し込んで使用するまでの手順を説明します。

コンパクトフラッシュを使ってみる

本機の電源をONにした状態で、PCカードを差し込むと、自動的に設定が始まります。設定が終了すると、PCカードを使い始めることができます。

1

コンパクトフラッシュアダプタ

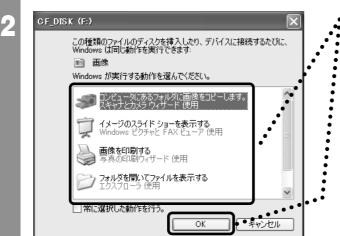
コンパクトフラッシュ

本機のPCカードスロットに、PCカードを差し込みます。

ここでは、コンパクトフラッシュアダプタに差し込んだコンパクトフラッシュをPCカードと呼びます。PCカードを差し込むと、PCカードイジェクトボタンが出てきます。

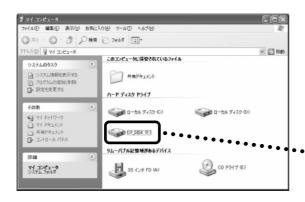
PCカードは差し込む向きがあります。無理に差し込もうとせず、方向を確認して正しく差し込んでください。差し込む方向については、PCカードに付属の取扱説明書をお読みください。

しばらくすると、自動的に認識されます。コンパクトフラッシュに画像などが保存されているされている場合は、スライドショーなどを自動的に行う機能が働きます。

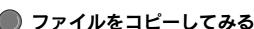
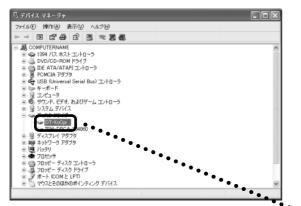
2

実行させたい機能を選択して、[OK]ボタンをクリックします。

機能を実行させたくない場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

正しく認識できたか確認する

差し込んだPCカードが、正しく認識されているかどうかを確認します。

●マイコンピュータで確認する

例として差し込んだPCカードは、ファイルを保存するためのハードディスクのような機器なので、【マイコンピュータ】の中に新しいハードディスクのアイコンが追加されていることで確認できます。

新しく接続された機器がアイコンとして表示されているのを確認します。

●デバイスマネージャで確認する

コンパクトフラッシュは、「マイコンピュータ」に追加されたアイコンで確認できますが、差し込んだPCカードの種類によって、確認の方法は異なります。一般的に、[コントロールパネル]の[システム]アイコンをダブルクリックし、[ハードウェア]タブの画面から、【デバイスマネージャ】ウィンドウを表示させて、差し込んだPCカードが登録されていれば、正しく認識されています。詳しくは、PCカードに付属の取扱説明書をお読みください。

差し込んだPCカードが表示されます。

PCカードによっては、接続後、さらに別の設定を行うものがあります。PCカードに付属の取扱説明書をお読みください。

ファイルをコピーしてみる

ハードディスクとして認識されたコンパクトフラッシュやスマートメディア内のファイルは、そのファイルをドラッグアンドドロップすることで、ハードディスクや他のディスクにコピーできます。

PCカードの取り出し

PCカードへのアクセス中に、本機からPCカードを抜いたりすると、スマートメディアやコンパクトフラッシュに記録されているデータが壊れる場合があります。取り外しは必ず次の手順で行ってください。

1

デスクトップ右下(タスクバー)の のアイコンをクリックします。

2

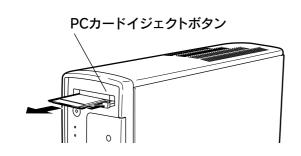
「PCMCIA IDE/ATAPI コントローラードライブを安全に取り外します」を選択します。

表示される名前は、差し込んでいるPCカードによって異なります。

3

次のようなダイアログが表示されたら[x]ボタンをクリックします。

4

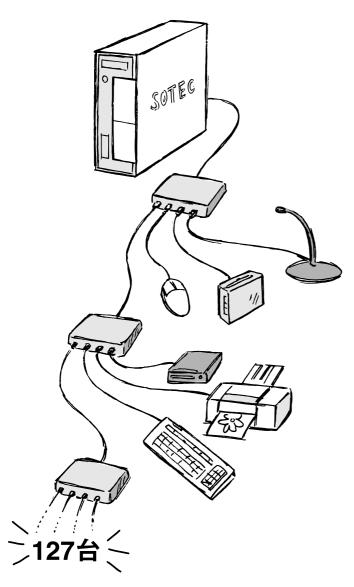
5

PCカードイジェクトボタンを押し込みます。

PCカードがPCカードスロットから少し出てきます。

PCカードをゆっくりと引き抜きます。

5 USB対応の周辺機器を使う

USBポートには、さまざまなUSB機器を接続して利用することができます。ここでは、USB機器を本機で使用するための準備作業について説明します。

USB(ユーエスビー)とは

USBとはUniversal Serial Busの略で、USBに対応する機器を、最大127台まで接続できるインターフェースです。

本機には、USBポートが4つ用意されていますが、市販のUSBハブを複数使用することで、最大127台(USBハブを含む)のUSB機器を接続できます。

USB機器の特長は、なんといっても本機の電源をONにしたまま、取り付け、取り外しができることでしょう。ふだんは取り外しておいて、必要なときだけ接続し、使い終わったら取り外す、というような使い方ができます。

本機のUSBポートは、USB1.1の規格に対応しています。USB2.0の規格のUSB機器は使用できません。

USB機器を接続する手順

ここでは、USB対応のスキャナを例に、本機に接続して使用するまでの手順を説明します。

USBコントローラを確認する

Windows XPを起動して、USBポートそのものをコントロールするためのデバイスドライバが有効になっているかを確認します。

1 [スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[システム]の順に選択します。

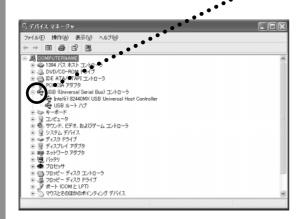
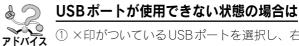
2 [ハードウェア]タブをクリックします。

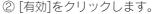
3 [デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。

4 [USB(Universal Serial Bus)コントローラ]の ⊞ の部分をクリックし、⊟ に変更します。

5 のマークに×がついていないか確認します。

USBポートが使用できない状態の場合は

アドバイス

① ×印がついているUSBポートを選択し、右クリックします。

② [有効]をクリックします。

これで、USBポートが使用できる状態になります。

STEP3 周辺機器を使いこなす

USB機器を接続する

本機の電源をONにした状態で、USB対応の周辺機器を接続すると、自動的に設定が始まります。設定が終了すると、USB機器をすぐに使い始めることができます。

コネクタを差し込む前に、デバイスドライバをインストールするUSB機器があります。USB機器に付属の取扱説明書をよく読んで、USB機器を接続してください。

1

本機のUSBポートに、USB機器のコネクタを差し込みます。

本機には、前面と背面にあわせて４つのUSBポートを用意しています。どちらのUSBポートを使用しても構いません。
コネクタには差し込む向きがあります。無理に差し込もうとせず、方向を確認して正しく差し込んでください。

USBポートが足りないときは

USBポートが４つでは足りないときは、市販のUSBハブを接続することで、USBポートの数を増やすことができます。
「複数のUSB機器を接続する」(☞ 63ページ)

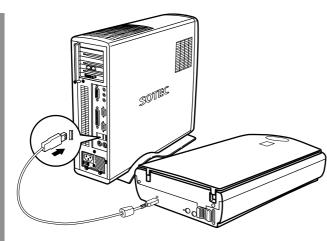
USB機器を接続後、しばらく待つと、自動的に画面の表示が切り替わり、【新しいハードウェアの検索ウィザードの開始】ダイアログが表示されます。表示されないときは、USBポートからコネクタを一度抜き、３秒以上おいてから、再度差し込んでみてください。

しばらくすると、自動的に必要なデバイスドライバを読み込み始めます。

2

表示される指示に従って操作します。

上記の方法で画面の表示が切り替わらないときは、Windowsを再起動させ、再度USB機器を接続してください。

USB機器に、Windows XP対応のデバイスドライバが付属されていない場合、USB機器をWindows XPで使うための専用デバイスドライバが別途必要になります。詳しくは、USB機器に付属の取扱説明書を読むか、USB機器販売メーカにお問い合わせください。

デバイスのインストールが終了したことを示すメッセージが表示されれば、設定は終了です。

3

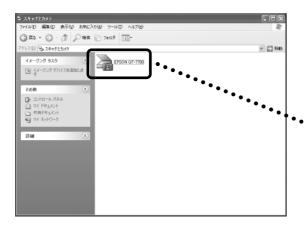
[完了]ボタンをクリックします。

USB機器によっては、この後、ソフトウェアのインストールなどの作業が必要になります。詳しくは、USB機器に付属の取扱説明書をお読みください。

USB機器は、一度接続して設定が終了すれば、次回からはUSBポートにコネクタを差し込むだけで、すぐに機器が使用できるようになります。このとき【新しいハードウェアの検索ウィザード】ダイアログは表示されません。

USBポートごとにUSB機器が管理されるため、前回とは異なるUSBポートにUSB機器を接続すると【新しいハードウェアの検索ウィザード】ダイアログが表示されることがありますが、その場合はメッセージに従って操作してください。

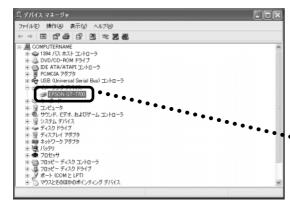
正しく接続できたか確認する

接続したUSB機器が、正しく認識されているかどうかを確認します。

■マイコンピュータで確認する

例として接続したスキャナは、[スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[プリンタとその他のハードウェア]→[スキャナとカメラ]にアイコンが追加されていることで確認できます。

新しく接続された機器のアイコンが表示されていることを確認します。

STEP3

周辺機器を使いこなす

■デバイスマネージャで確認する

一般的に、[スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[システム]を選択し、[ハードウェア]タブ画面から【デバイスマネージャ】ダイアログを表示させて、接続したUSB対応機器が登録されているか確認します。詳しくは、USB機器に付属の取扱説明書をお読みください。

接続したUSB機器が表示されていることを確認します。

名前は接続した機器によって異なります。

USB機器によっては、接続後、さらに別の設定を行うものがあります。USB機器に付属の取扱説明書をお読みください

複数のUSB機器を接続する

市販のUSBハブを使えば、1つのUSBコネクタを4つのUSBコネクタに分岐して増やすことができます。このUSB ハブを何台も使えば、USBハブも含めて最大127台(パソコン1台あたり)までの機器を接続できます。
ここでは、USBハブを使用し、複数のUSB機器を接続する方法について説明します。

バスパワーとセルフパワーについて

USB機器は、機器自身が動作するために必要な電流の大きさによって、次のタイプに分かれます。USBハブを使う場合は、お持ちのUSB機器がどのタイプかを確認することが必要です。

■バスパワー型
機器自身では電源を持たず、動作に必要な電流をUSBコネクタから消費して動作します。

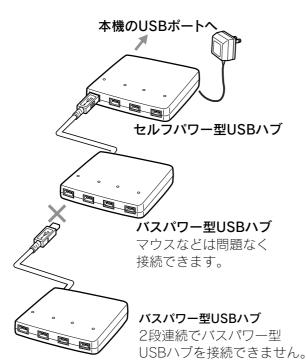
■セルフパワー型
USB機器自体の消費電流が多く、USBコネクタからの電流では動作できないため、機器にACアダプタの接続が必要です。

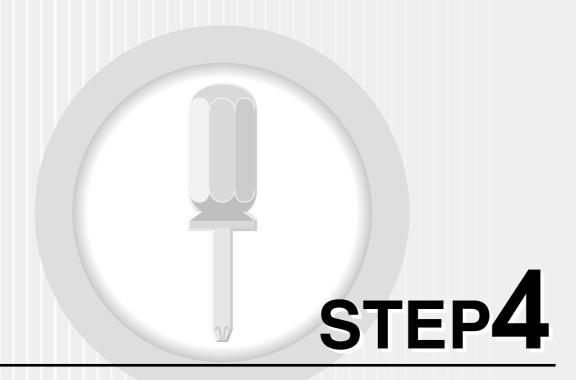
アップストリームとダウンストリームのコネクタについて

**アップストリーム
ポート用コネクタ
(Aコネクタ)**

**ダウンストリーム
ポート用コネクタ
(Bコネクタ)**

通常USBハブには、本機(上流)のUSBコネクタから電流を受けるために接続するポート(アップストリームポートという)と、数珠つなぎにUSB機器をつなげるためのポート(ダウンストリームポートという)があります。それぞれのポートに接続するための、USBケーブルのコネクタ形状は、左のイラストのように形状が異なります。

USBハブを使った接続例

セルフパワー型の次に、バスパワー型の機器というように交互に接続できます。
バスパワー型の機器を2段連続で接続すると、接続するUSB機器によっては、使用できないものがありますので、注意してください。

USBハブの詳しい使用方法は、USBハブの取扱説明書をお読みください。

STEP4

本体内部の増設について

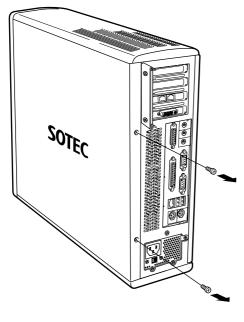
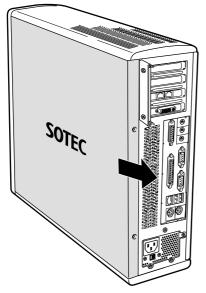
STEP3ではパソコンの外部に周辺機器を接続することについて説明しました。このSTEP4では、パソコンの内部での増設の方法について説明します。パソコンの内部の増設と言うと、初心者には難しいと思いがちですが、このSTEP4の内容をしっかり理解しておけば大丈夫です。また、内部を拡張することで、本機の機能性をさらに高めることができるでしょう。

1 本体カバーの取り付けと取り外し

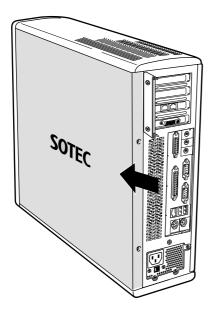
本製品は、機器の拡張・交換がしやすいように、簡単にカバーが外せます。

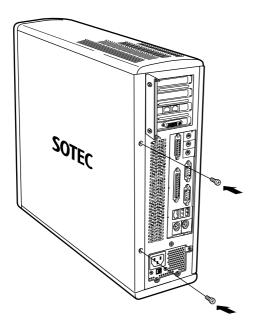
本体カバーの取り外し

・本体内部の機器を取り付けたり、取り外したりするときは、金属のへりでケガをしないよう、手袋をして作業をするなど十分に気を付けてください。
・本体カバーを取り外すときは、必ず電源ケーブルをコンセントから抜いてください。また、モデムやネットワークに接続しているケーブルなども外してください。

1 本体背面にある2つのネジを外します。

2 本体カバーを背面側にスライドさせます。

3 シャーシから本体カバーを取り外します。

本体カバーの取り付け

1 内部のケーブルや機器が正しく装着・固定されていることを確認します。

2 本体カバーを背面からスライドさせ取り付けます。

3 2つのネジで本体カバーを固定します。

2 前面カバーの取り付けと取り外し

本製品は、機器の拡張交換がしやすいように、前面カバーを外せます。

前面カバーの取り外し

注 意

本体内部の機器を取り付けたり、取り外すときは、金属のへりでケガをしないよう、手袋をして作業をするなど、十分に気を付けてください。

1

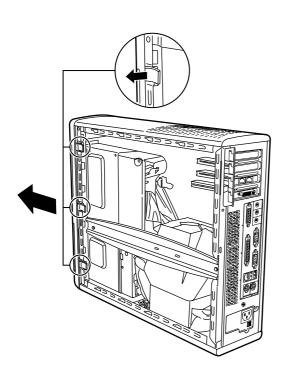
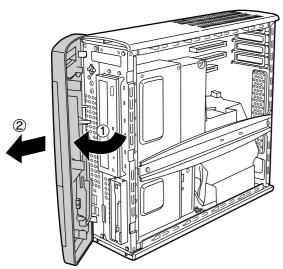
本体カバーを取り外します。

「本体カバーの取り外し」(☞ 66ページ)

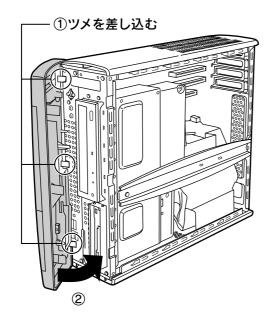
注 意

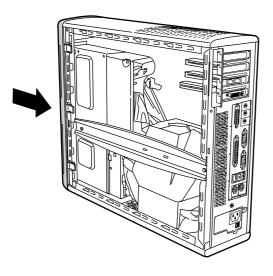
本体カバーを外さないと、前面カバーは取り外せません。

2

シャーシに固定されている3ヵ所のツメを外側に寄せて、ツメをシャーシから外します。

3

矢印の順序と方向に沿って、前面カバーをゆっくり外します。

前面カバーの取り付け

1

矢印の順序と方向に沿って、ツメをシャーシの穴に差し込み、前面カバーを閉じます。

2

前面カバーを矢印の方向に「カチッ」と音が鳴るまで押し込みます。

3

本体カバーを取り付けます。

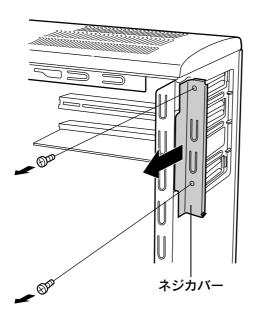
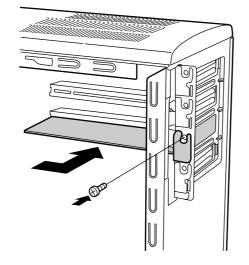
「本体カバーの取り付け」(☞ 67ページ)

3 各種カードの取り付けと取り外し

本機は、PCIスロットにさまざまな機能のオプションカード(PCIカード)を取り付けられます。
※Low Profile PCIカード以外は取り付けはできません。

オプションカードの取り付け

1 **本体カバーを取り外します。**
「本体カバーの取り外し」(☞ 66ページ)

注 意

オプションカードを装着するときは、ドアのノブなど身近な金属に手を触れて、体の静電気を取り除いてください。
(☞ 49ページ)

2 **PCIスロットのネジカバーを取り外します。**

3 **PCIスロットから不要なオプションカードを取り外します。**
「オプションカードの取り外し」(☞ 71ページ)

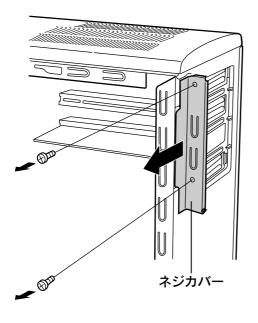
4 **オプションカードをマザーボードのPCIスロットに装着します。**

オプションカードによっては、必要に応じて、マザーボードのコネクタにケーブルを接続します。

注 意

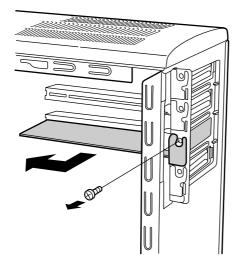
オプションカードがマザーボードに対して垂直になるように押し込んでください。
カードによっては、かなり力を入れないと装着できないこともありますが、マザーボードを壊さないように注意してください。

5 **オプションカードをネジで固定します。**

6 **PCIスロットのネジカバー、本体カバーを取り付けます。**
「本体カバーの取り付け」(☞ 67ページ)

オプションカードの取り外し

1 **本体カバーを取り外します。**

「本体カバーの取り外し」(☞ 66ページ)

2 **PCIスロットのネジカバーを取り外します。**

3 **オプションカードを固定しているネジを外します。**

4 **オプションカードを取り外します。**

5 **PCIスロットのネジカバー、本体カバーを取り付けます。**

「本体カバーの取り付け」(☞ 67ページ)

4 メモリの増設

複数のアプリケーションを使っているときなどに、処理速度が遅いと感じるようになってきたら、メモリを増やしてみましょう。ここでは、メモリについての基本的な知識と、メモリの増設方法について説明します。

メモリについて

メモリは、作業をするときの「作業机」のようなものです。机の上が広いと作業がしやすいように、メモリの総容量が大きいとアプリケーションの動作も快適になります。

メモリが少ないと・・・

本機で使用できるメモリ

本機には、メモリ用のソケットが２個あります。メモリは、最大1Gバイト(512Mバイトのメモリを２枚)まで増やすことができます。

本機で使用できるメモリは、次の仕様の168ピンDIMMモジュールです。

メモリの種類	SD RAM
動作電圧	3.3V
ECC構成	パリティなし
メモリの速度	133MHz(PC/133)

注 意

メモリは、大変壊れやすい部品です。取り外したメモリは大切に保管してください。

アドバイス

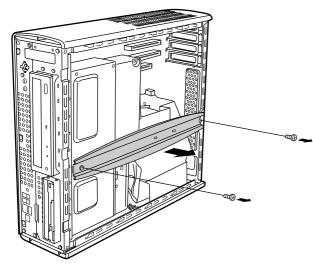
メモリには大きく分けてSIMM(シム)メモリと、DIMM(ディム)メモリがあります。本機で使用できるのは、168ピンDIMMメモリです。DIMMは、従来のSIMMのように同じ容量のメモリを２枚１セットで組み込む必要はなく、１枚単位で本機のメモリソケットに差し込めます。

メモリの取り付けと取り外し

ここでは、メモリの取り付け方と、取り外し方を説明します。
メモリを取り付けるソケットは2つのうち、どちらのソケットでもかまいません。また、ソケットごとにメモリの容量と速度が異なっても差し支えありません。

注意

メモリを取り扱うときに気をつけること

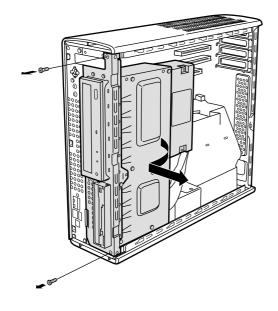
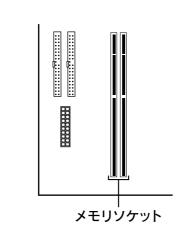
・装着の前には、必ず本機の電源をOFFにしてください。
・本機には必ずDIMMタイプのメモリをお使いください。
・メモリは静電気に大変弱い部品です。静電気を帯びた物や人の手でメモリに触れると、メモリが壊れる恐れがあります。メモリを取り扱うときは、ドアのノブなど身近な金属に手を触れて、体の静電気を取り除いてください。(☞ 49ページ)
・メモリの端子部には触れないでください。端子部分に手を触れると、接触不良によりメモリが壊れる恐れがあります。

1 **本体カバーと前面カバーを外します。**

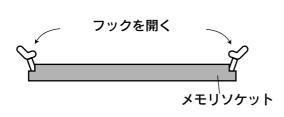
「本体カバーの取り外し」(☞ 66ページ)
「前面カバーの取り外し」(☞ 68ページ)

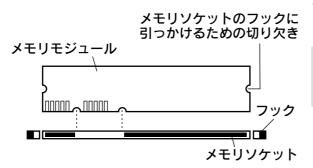
2 **本機にシャーシを固定している2つのネジを取り外し、シャーシを本機から取り外します。**

STEP4 本体内部の増設について

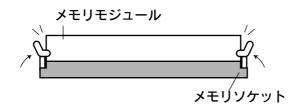
3 **本機にドライブブランケットを固定している2つのネジを取り外し、矢印の方向に動かしながら、ドライブブランケットを取り外します。**

4

マザーボード上のメモリソケットの位置を確認します。（☞ 128ページ）

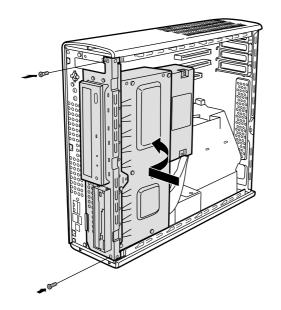
5

メモリソケットの両側にあるフックを外側に開きます。

6

メモリを装着します。

このときメモリの向きを間違えないように、また、メモリ下部の切り欠きがメモリソケットの凸部に合うようにしてください。

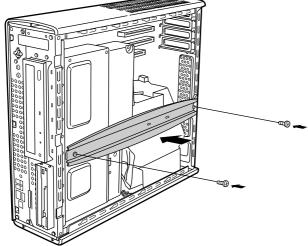
7

メモリソケットの両側のフックがメモリモジュール両側の切り欠きに引っかかるまで、しっかりと差し込みます。

メモリはその種類によってメモリ下部の切り欠きの位置が異なります。切り欠きの位置が異なるメモリは、メモリソケットに差し込むことはできません。無理に差し込まないでください。

8

本機にドライブブランケットを取り付けて、2つのネジで固定します。

9

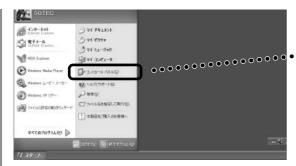
本機にシャーシを取り付け、2つのネジで固定します。

10

本体カバーおよび前面カバーを取り付けます。

「本体カバーの取り付け」(☞ 67ページ)
「前面カバーの取り付け」(☞ 69ページ)

増やしたメモリを確認する

電源をONにして、メモリが増えているか確認しましょう。

1 2

電源をONにします。

[スタート]ボタンから[コントロールパネル]を選択します。

3

[パフォーマンスとメンテナンス]を選択します。

4

[システム]を選択します。

5

ここに表示されている数字を確認します。

表示されたメモリの大きさが増えていなかった場合は、メモリが正しく取り付けられているか、このパソコンで使えるメモリを取り付けたかを確認してください。

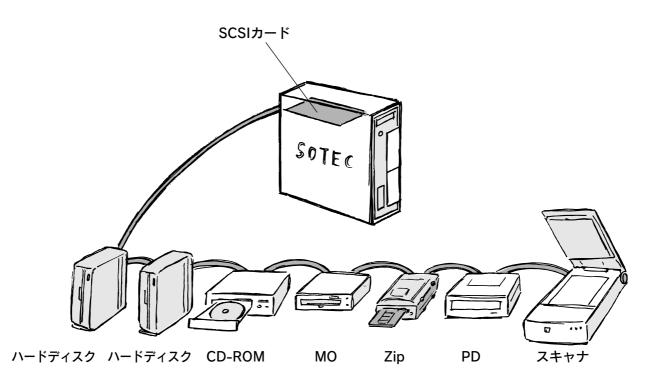
5 SCSI対応の機器を使う

ここでは、SCSIの基礎知識、SCSIインターフェースカードの取り付け方、SCSI対応機器の接続方法を説明します。

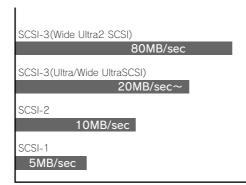
SCSI(スカジー)とは

ハードディスク、MOドライブなど、高速なデータ転送速度を要求される周辺機器は、SCSI(スカジー)という規格で本機と接続されます。
SCSIに対応した周辺機器を接続するには、本機にSCSIインターフェースカードを装着する必要があります。
SCSI機器は、デイジーチェーンと呼ばれる数珠つなぎの形で、最大7台(SCSI-1、SCSI-2の場合)の機器が接続できます。
また、その終端となるSCSI機器には「ターミネータ」と呼ばれる装置を付けることになっています。

接続できるSCSI機器

SCSI対応の機器には、次のようなものがあります。
・ハードディスクドライブ
・Zip、Jazzドライブ
・MO(エムオー)、PDドライブ
・CD-R / CD-RW、DVD-ROM / RAMドライブ
・イメージスキャナ、フィルムスキャナなど

SCSI規格の種類

SCSI規格には、現在、5つの規格があり、接続できる機器の台数、ケーブル長が異なります。

・SCSI-1(SCSI)
・SCSI-2(Fast SCSI,WIDE SCSIともいう)
・SCSI-3(Ultra SCSI、Wide Ultra SCSI、およびWide Ultra2 SCSIの3種類がある)

SCSI、SCSI-2、SCSI-3の順で規格化され、現在、市販されているSCSI機器は、いずれかの規格に準拠しています。
主な特長は、データ転送速度がSCSI-1、SCSI-2、SCSI-3の順で高速になっている点と、新しいSCSI規格は以前のSCSI規格の機器でも使用できるという点です。
たとえば、SCSI-3の規格に準拠しているSCSIインターフェースカードが装着されているパソコンには、SCSI-3の対応機器と、SCSI-2の対応機器というように混在して使用できます。

SCSI機器を接続する前に

SCSI機器を接続するには、SCSI機器にそれぞれのID番号を設定し、終端となる機器を決めて接続しなければなりません。ここでは、SCSI機器を接続する前に、まず準備しておくことについて説明しています。

SCSI機器を使用する手順

SCSI機器を使うには、まず、SCSIカードを本機に装着する必要があります。SCSIカードを装着した後は、次のような手順でSCSI機器を接続します。

市販のSCSIカード､SCSIケーブルを用意する

SCSIカードやSCSIケーブルの他に、終端抵抗(ターミネータ)が必要な場合があります。

接続するSCSI機器を用意する

接続するSCSI機器を用意します。SCSI機器はSCSIカードの規格に注意して選択してください。また、SCSI機器に付属の取扱説明書も手元に用意してください。

SCSIカードを取り付ける

本機にSCSIカードを取り付けます。
(☞81ページ)

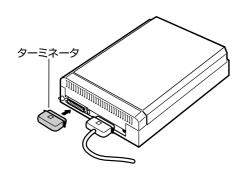
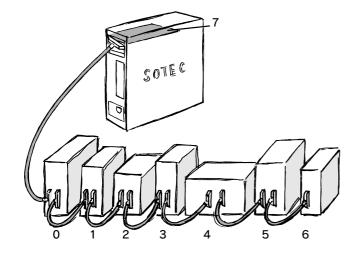
SCSI機器のSCSI ID(アイディー)と終端抵抗を設定する

SCSI機器のSCSI IDと終端抵抗(ターミネータ)を設定します。(☞83ページ)

SCSI機器をSCSIケーブルで接続する

SCSI機器と、SCSIカードを、SCSIケーブルで接続します。(☞83ページ)

SCSIカードのデバイスドライバを設定する

> **アドバイス**
> SCSI IDと終端抵抗(ターミネータ)の設定方法は、SCSI機器によって異なります。設定方法はSCSI機器に付属の取扱説明書をご参照ください。

終端抵抗(ターミネータ)について

終端抵抗は「ターミネータ」ともいいます。接続した最後のSCSI機器に取り付けるコネクタ形状のもので、SCSI信号を調整する機能があります。SCSI機器によっては、ターミネータを取り付ける代わりに、ディップスイッチなどによってターミネータ機能を有効/無効にするものがあります。
SCSI機器のターミネータ機能をどのように設定するかは、SCSI機器に付属の取扱説明書をご参照ください。

SCSI IDについて

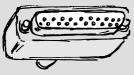
SCSI機器は、本機に各機器を認識させるために、それぞれ0から7番の番号の設定が必要です。
この番号をSCSI IDといいます。SCSI IDは、接続順に設定する必要はありませんが、重複しないように設定してください。重複するとSCSI機器が正常に動作しなくなります。
SCSIカード自身にもSCSI IDが必要で、一般的に7番と決められています。SCSIカード以外のSCSI機器は、0から6番のIDをそれぞれ割り振ります。

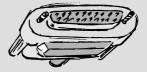
複数のSCSI機器を接続するときは、SCSIケーブルの総延長を3m以内にしてください。3mを超えると、各機器が正常に動作しなくなることがあります。
SCSIケーブルは、SCSIカード側とSCSI機器側のコネクタ形状に合わせて、さまざまな形状のものがあります。

SCSI機器に使用されている代表的なコネクタ形状を紹介します。

オスコネクタ

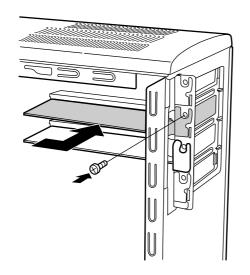
アンフェノールフルピッチ

50ピンハーフピッチ

メスコネクタ

アンフェノールハーフピッチ

D−Sub25ピン

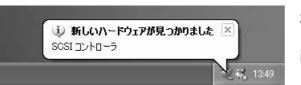
SCSIカードを取り付ける

SCSIカードをPCIスロットに取り付けます。

1

SCSIカードをPCIスロットに取り付けます。

「オプションカードの取り付け」(☞ 70ページ)

PCIスロットのスロットカバーを取り外してから、SCSIカードをスロットに差し込み、SCSIカードをネジで固定します。
SCSIカードを取り付けるときには、必ずSCSIカードに付属の取扱説明書をご参照ください。

2

本機の電源をONにします。

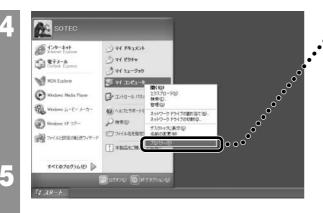
画面右下に「新しいハードウェアが見つかりました」と表示され、SCSIカードのデバイスドライバが自動的にインストールされます。

SCSIカードの種類によっては、自動的にインストールされない場合があります。その場合は、SCSIカードに付属の取扱説明書をご参照の上、手動で設定してください。

3

Windows XPを再起動します。

次に、SCSIカードが本機で使用できる状態に設定されたかを確認します。

4

[スタート]ボタンをクリックし、[マイコンピュータ]を右クリックして表示されるメニューから[プロパティ]を選択します。

【システムのプロパティ】ウィンドウが表示されます。

5

[ハードウェア]タブを選択し、[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。

【デバイスマネージャ】ダイアログが表示されます。

6

[SCSIとRAIDコントローラ]の ⊞ の部分をクリックし、⊟ に変更させます。

手順2でインストールされたSCSIカードのデバイスドライバが表示されます。

7

表示されたSCSIカードのデバイスドライバ名をダブルクリックします。

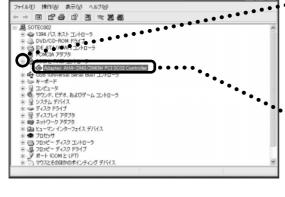
SCSIカードのデバイスドライバの詳細情報が表示されます。

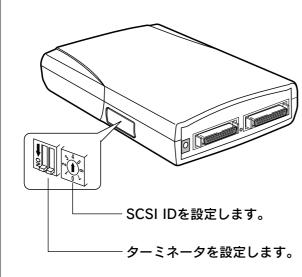
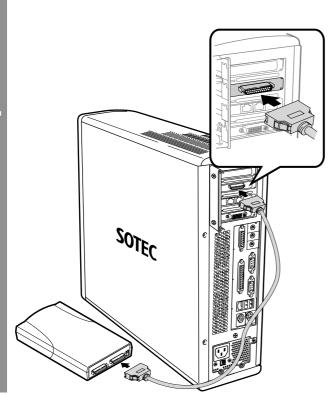
8

「このデバイスは正常に動作しています」と表示されていることを確認します。

次にSCSI機器を接続します。

STEP4

本体内部の増設について

SCSI機器を接続する

SCSIカードを本機に取り付けた後、SCSI機器を接続します。ここでは、接続するSCSI機器として、MOドライブを例に説明します。

1 **SCSI機器および本機の電源をOFFにします。**

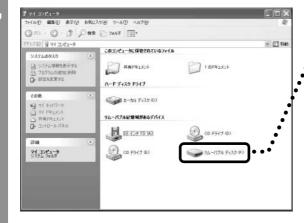
2 **SCSI機器のSCSI IDを設定します。**

例として説明するMOドライブは、SCSI IDを側面のロータリースイッチで設定します。SCSI機器によっては、スイッチの位置や設定方法が異なるので、SCSI機器に付属の取扱説明書をご参照ください。
通常、SCSIカードのSCSI IDは7番に設定されています。その他のSCSI 機器は0～6の範囲内に設定します。
他のSCSI機器をすでに接続している場合、その機器のSCSI IDと重複しないようにします。

3 **ターミネータを設定します。**

ここでは、MOドライブがSCSI機器の一番最後に接続されていることを例に説明しているので、MOドライブにターミネータを接続します。
例として説明するMOドライブは、ターミネータの機能を側面のディップスイッチで設定します。SCSI機器によっては、スイッチの位置や設定方法が異なるので、SCSI機器に付属の取扱説明書をご参照ください。

4 **本機に取り付けたSCSIカードのSCSIコネクタとSCSI機器を、SCSIケーブルで接続します。**

コネクタによっては、左右のフックでコネクタが外れないように固定することができます。このようなフックがある場合には、必ず固定してください。
SCSI機器のSCSIコネクタは、通常2つ用意されています。一般的にどちらのコネクタを使っても構いません。
SCSIケーブルのコネクタは、逆向きに差し込めないようになっています。向きをよく確認して、無理に押し込まないでください。

5 **SCSI機器、本機の順に電源をONにします。**

次に、接続したSCSI機器が認識されているか確認します。

6 **[スタート]ボタンをクリックし、[マイコンピュータ]を選択します。**

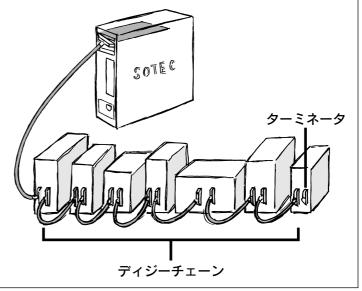
7 **【マイコンピュータ】ウィンドウの中に、[リムーバブルディスク]のアイコンが追加されていることを確認します。**

例として接続したMOドライブは、ファイルを保存するためのハードディスクのような機器なので、マイコンピュータの中に新しいリムーバブルディスクのアイコンが追加されていることで確認できます。

MOドライブは、マイコンピュータに追加されたアイコンで確認できますが、接続したSCSI機器の種類によって、確認の方法は異なります。
一般的に、[コントロールパネル]の[システム]アイコンをダブルクリックし、【デバイスマネージャ】を表示させて、接続したSCSI機器が登録されていれば、正しく接続されています。詳しくは、SCSI機器に付属の取扱説明書をご参照ください。

アドバイス

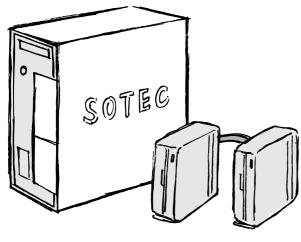
複数のSCSI機器を接続する場合

複数のSCSI機器を接続する場合は、数珠つなぎの方法でSCSI機器を接続していきます。
これを「ディジーチェーン」と呼びます。
終端となる機器にはターミネータを差し込んでください。

6 ハードディスクを増設する

ハードディスクの容量を増やすには、新たなハードディスクを増設するのが一番の早道です。ここでは、ハードディスクの種類を紹介します。

ハードディスクの種類

ハードディスクは、大きく分けて、主に外付けで使用されるSCSI対応のハードディスクと、IDE(アイディイー)と呼ばれる規格のハードディスクがあります。また、最近ではUSB対応のハードディスクも普及しています。

SCSIタイプのハードディスク

外付けのハードディスク

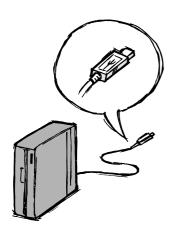
外付けのハードディスクを増設する場合は、SCSI機器の一般的な手順で、容易に接続できます。
「SCSI対応の機器を使う」(☞ 77ページ)
SCSIカードには一般的に、外部型機器用と内蔵型機器用に増設用コネクタがあります。

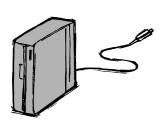
内蔵型機器を増設する場合は、SCSIカードの内部増設用コネクタと、内蔵用ハードディスクのコネクタを、50ピン(SCSI規格によっては68ピン)フラットケーブルを使用して接続します。また、電源は本機の内部用電源ケーブルを内蔵用ハードディスクに接続して供給します。外付けと同様、SCSI IDやターミネータの設定も必要で、ジャンパスイッチなどで設定をします。

なお、接続した後は、フォーマットと呼ばれる作業が必要です。フォーマットは、ハードディスクに付属のユーティリティソフトウェアを使用する場合があります。ハードディスクに付属の取扱説明書をご参照ください。また、増設したハードディスクを起動用にしたい場合は、フォーマット時に「システムファイル」をコピーしてください。

IDEタイプのハードディスク

マザーボード上に、IDEタイプの機器を接続するためのコネクタがあります。そのコネクタから合計2台のハードディスクを接続できます。すでに接続されているハードディスクは「マスタ」と呼ばれ、次に接続するハードディスクは「スレーブ」になります。
マスタ(1番目)に接続するか、スレーブに接続するかで、ハードディスクのジャンパスイッチなどの設定が必要です。
なお、本機は、IDEの増設ができません。IDEタイプのハードディスクを取り付ける場合は、既存のIDEハードディスクを取り外す必要があります。

USBタイプのハードディスク

現在のUSBの普及にともなって、USB対応の外付けのハードディスクも販売されています。
データの転送量はSCSI機器と比べてやや遅いですが、ハードディスクの接続という点では、どのタイプのハードディスクよりも簡単です。

IEEE1394タイプのハードディスク

接続がUSBタイプと同じく簡単な、IEEE1394に対応した外付けハードディスクもあります。
データの転送量は、SCSIタイプと同じく高速です。

内蔵ハードディスクドライブの取り付けと取り外し

本製品には、すでに3.5インチハードディスクドライブが内蔵されています。新たにハードディスクドライブを取り付けるには、すで取り付けられているハードディスクドライブと交換して取り付ける必要があります。
ここでは、ハードディスクドライブの取り付けと取り外しについて説明します。

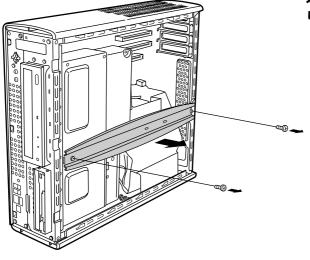
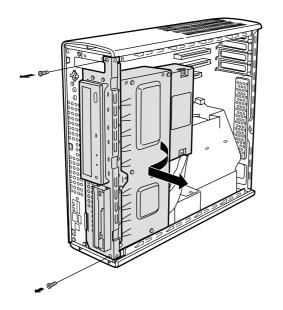
ハードディスクドライブの取り外し

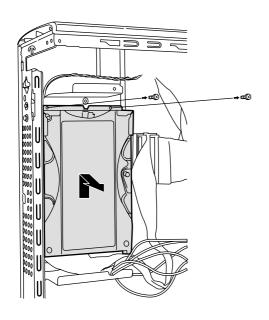
本機に内蔵できるハードディスクドライブは1台のみです。新しいハードディスクドライブを内蔵で取り付ける場合は、既存のハードディスクドライブを取り外す必要があります。

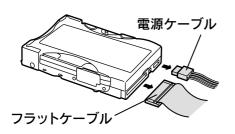
1 **本体カバーおよび前面カバーを取り外します。**

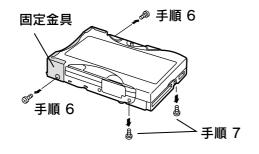
「本体カバーの取り外し」(☞ 66ページ)
「前面カバーの取り外し」(☞ 68ページ)

2 **本体にシャーシを固定している2つのネジを取り外し、シャーシを本機から取り外します。**

STEP4
本体内部の増設について

3 **本体にドライブブランケットを固定している2つのネジを取り外し、矢印の方向に動かしながら、ドライブブランケットを取り外します。**

4

本体にハードディスク固定金具を固定している2つのネジを外し、ハードディスク固定金具を取り外します。

5

ハードディスクドライブから、電源ケーブルとフラットケーブルを抜きます。

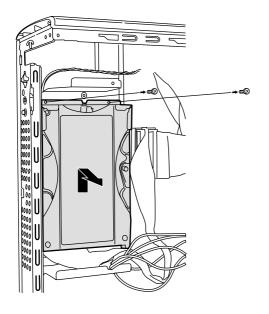
6

ハードディスク固定金具にある2つのネジを外し、ハードディスク固定金具からハードディスクドライブを取り外します。

7

底面にある2つのネジを外します。

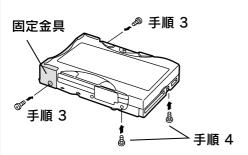
ハードディスクドライブの取り付け

ハードディスクドライブの取り付けや取り外しの際には、ジャンパの設定が必要になる場合があります。コンピュータはジャンパの設定によって、使用するハードディスクドライブを認識します。ハードディスクドライブに付属のマニュアルをお読みの上、正しく設定してください。

1

ハードディスクドライブを取り外します。
「ハードディスクドライブの取り外し」
(☞ 87ページ)

2

ハードディスクドライブのマニュアルを参考に、ジャンパ/スイッチ/ターミネータなどを設定します。

3

ハードディスクドライブを2つのネジで固定金具に取り付けます。

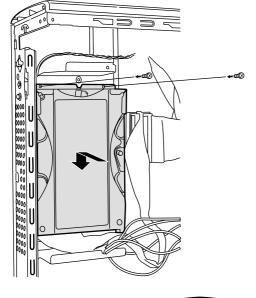
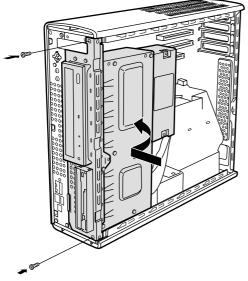
4

ハードディスクドライブの底面に2つのネジを取り付けます。

5

電源ケーブルとフラットケーブルをハードディスクドライブに接続します。

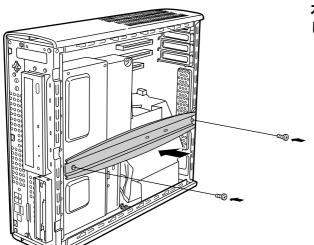
6

ハードディスク固定金具を本機に取り付けます。

7

矢印の方向に動かしながら、ドライブブランケットを本機に取り付け、2つのネジでドライブブランケットを本機に固定します。

8

本機にシャーシを取り付け、2つのネジで固定します。

9

本体カバーと前面カバーを取り付けます。

「本体カバーの取り付け」(☞ 67ページ)
「前面カバーの取り付け」(☞ 69ページ)

STEP5

インターネットとホームネットワーク

インターネットは、「ブロードバンド」と呼ばれる高速通信接続サービスの普及により、今までと違った楽しみ方が生まれつつあります。また、パソコンの普及率も高くなり、家庭内で複数のパソコンを所有することも珍しくなくなりました。複数のパソコンでネットワークを構築すれば、ひとつのインターネット回線やプリンタを複数のパソコンで共有できるようになります。ここではインターネットとホームネットワークの概要を説明します。

1 インターネットに接続しよう

インターネットでは、世界中のさまざまな情報を自由に見ることができます。
また、お客様のパソコンから世界中に情報を発信することもできます。

インターネットでできること

インターネットにはいろいろな使い方があります。ここではその一例を紹介します。

ショッピングをする
Webページを持っている世界中のお店で、時間や距離を気にせず、いつでもどこでも、ショッピングが楽しめます。欲しい商品を探す、注文する、配達してもらうなど、すべてのやり取りが、簡単にインターネットを通じて行えます。

電子メールをする
インターネットにつながったコンピュータどうしで、電子メールのやりとりができます。
お互いの電子メールアドレスを交換すれば、親しい友人や仕事仲間だけでなく、インターネット上で知り合った人にも、電子メールを送ることができます。

情報を発信する
自分のWebページを作って、世界中の人々に情報を発信することができます。インターネットを通じて自分の意見を知らせたり、同じ趣味を持つ仲間を集ったりすることができます。

新聞、テレビ、ラジオを見る
世界中のマスコミやメディアが独自のWebページを提供しています。ニュース番組や新聞記事に対する感想を一般から集めたり、番組や記事の内容を新聞や放送よりも詳しく、インターネット上で公開しています。

インターネットサービスプロバイダ(プロバイダ)
本機とインターネットとの接続を仲介します。インターネットを安全に利用するための設定等を代行してくれます。

プロバイダまでの接続方法

インターネットとの接続を仲介するインターネットサービスプロバイダへの接続方法はさまざまです。ここでは、アナログ電話回線以外の代表的な接続方法を紹介します。いずれの接続方法も接続サービス会社を通じて利用するのが一般的です。

ADSL
通信速度 ：1Mbps～8Mbps
(アナログ電話回線の約18～140倍速)

一般のアナログ電話回線の広域帯を利用した、アップロードとダウンロードの通信速度が非対称の接続サービスです。電話回線を利用できるので、導入工事が比較的簡単です。

ISDN回線
通信速度 ：64kbps
(アナログ電話回線の約1.1倍速)

日本全国のほとんどの場所に普及している接続サービスです。他の接続サービスにくらべて通信速度は劣りますが、デジタル回線を利用しているので、安定したインターネット通信ができます。

CATV
通信速度 ：256kbps～2Mbps
(アナログ電話回線の約4.5～35倍速)

ケーブルテレビのケーブル回線を利用した接続サービスです。接続サービス会社の選択の自由はありませんが、ケーブルテレビと同時に導入を申し込む場合などは、割安でサービスを受けられる場合もあります。

光ファイバー
通信速度 ：4Mbps～100Mbps
(アナログ電話回線の約70～1800倍速)

最大100Mbpsという超高速の通信を可能にする接続サービスで、次世代のインターネット接続サービスの中心と期待されています。ただし、サービスを開始している地域は限られています。

インターネットに必要なもの

インターネットを始めるには、次のものが必要になります。

通信機器

アナログ電話回線やISDN回線など、インターネットサービスプロバイダと物理的に接続するものです。インターネットサービスプロバイダへの接続方法により、必要なものは異なります。

プロバイダとの契約

プロバイダとは、インターネットと本機を仲介する役目を果たしているインターネット接続サービス会社のことです。プロバイダはインターネットを安全に利用するための設定等を代行してくれます。個人でインターネットを利用する場合は、契約する必要があります。

ソフトウェア(Internet Explorer & Outlook Express)

ホームページを閲覧するWebブラウザソフト「Internet Explorer」と、電子メールを送受信するメールソフト「Outlook Express」はWindows XPに付属しています。新たに準備する必要はありません。

インターネットに接続する

※モデム搭載モデルのみ

ここではアナログ電話回線を使ってインターネットに接続する方法を説明します。
その他の接続方法で接続する場合は、各接続サービス会社にお問い合わせください。

1

FAXモデムポート
電話回線コンセント
モジュラーケーブル
電話機

パソコン本体の背面にあるFAX/モデムポートと電話回線コンセントをモジュラーケーブルでつなぎます。

チェック

・電話回線コンセントには、モジュラーケーブル以外は挿入しないでください。
・本機に内蔵のモデムは、V.90の規格に対応しています。V.90は、アナログ電話回線でプロバイダからユーザー側への通信方向のみ(データのダウンロード時など)、最高56000bpsの通信速度を実現しようという規格です。ユーザー側からプロバイダへの通信方向は最高33600bpsになります。なお、電話回線の状態が悪い場合、またはプロバイダがV.90に対応していない場合は、56000bpsで接続できません。

2

[スタート]ボタンから[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[新しい接続ウィザード]の順に選択します。

【新しい接続ウィザード】ダイアログが表示されます。

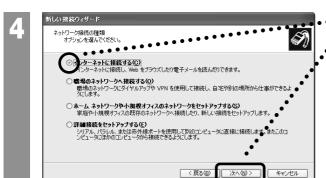
3

新しい接続ウィザード
新しい接続ウィザードの開始
このウィザードでは次の手助けをします:
• インターネットへの接続
• 職場でのネットワークなどのプライベート ネットワークへの接続
• ホーム ネットワークや小規模オフィスのネットワークのセットアップ
続行するには [次へ] をクリックしてください。
< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

[次へ]ボタンをクリックします。

アドバイス

インターネットに接続する方法として、オンラインサインアップという方法があります。オンラインサインアップは、インターネットサービスプロバイダとの契約、およびインターネットに接続するまでの設定が同時にできます。[スタート]ボタンから[本製品をご購入のお客様へ]を選択し、[選ぼう!インターネット]をクリックすると、オンラインサインアップができる各種インターネットサービスプロバイダが表示されます。

4

「インターネットに接続する」を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。

5

「接続を手動でセットアップする」を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。

6

利用している通信方式にあわせて任意で選択して、[次へ]ボタンをクリックします。

ここでは「ダイヤルアップモデムを使用して接続する」を選択します。

7

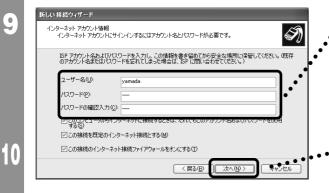
プロバイダの名前を任意で入力して、[次へ]ボタンをクリックします。

ここでは例として「sotec」と入力します。

ISP名はどのような名前でも構いませんが、複数のプロバイダを利用する場合などは、それぞれを分かりやすく管理するために、プロバイダ名を入力するのが一般的です。

8

プロバイダのアクセスポイントの電話番号を入力して、[次へ]ボタンをクリックします。

9

「ユーザー名」にはプロバイダが提供するインターネットアカウント名を、「パスワード」および「パスワードの確認入力」にはプロバイダが提供するパスワードを、それぞれ入力します。

10

[次へ]ボタンをクリックします。

11

[完了]ボタンをクリックします。

インターネットへ接続するためのダイアログが表示されます。

12 [ネットワーク]タブをクリックします。

13 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックします。

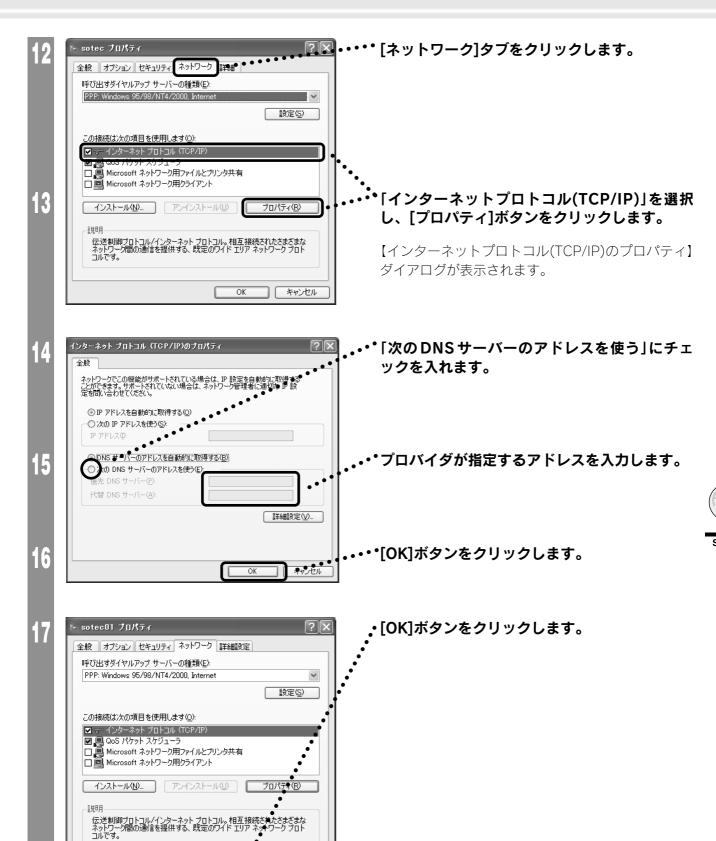
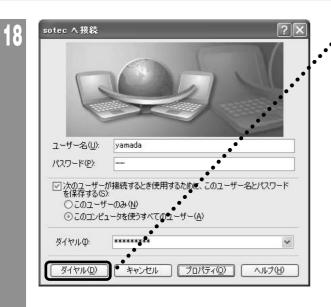
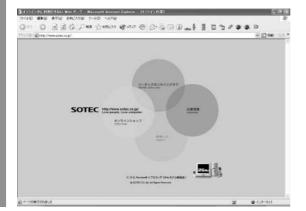
【インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ】ダイアログが表示されます。

14 「次のDNSサーバーのアドレスを使う」にチェックを入れます。

15 プロバイダが指定するアドレスを入力します。

16 [OK]ボタンをクリックします。

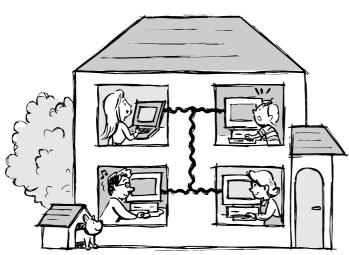
17 [OK]ボタンをクリックします。

18

[ダイヤル]ボタンをクリックします。

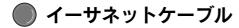
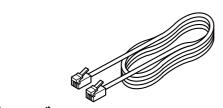
正しく接続できると、ホームページが表示されます。

2 ホームネットワークを構築しよう

家にパソコンが複数ある場合、ホームネットワークの構築をおすすめします。
パソコンのハードディスク上にあるデータや、プリンタをすべてのパソコンで共有することが可能になります。

ホームネットワーク構築のメリット

複数のパソコンをネットワークで接続すると、それぞれのパソコンの使い勝手が大きく向上します。
１つのインターネット回線やプリンタをすべてのパソコンで使用することができ、さらにはパソコン同士でデータをやり取りすることもできます。

構築に必要なもの

ネットワークを構築するには、次のものが必要です。

ネットワークの設定は使用状況によって異なります。専門書籍を参照するか、Windowsネットワークシステムの技術者にご相談ください。

イーサネットケーブル

現在よく使われているのは10BASE-Tおよび100BASE-TXと呼ばれる規格のものです。
ネットワークケーブルには、ストレートケーブルとクロスケーブルの２種類がありますが、通常はストレートケーブルを使用します。

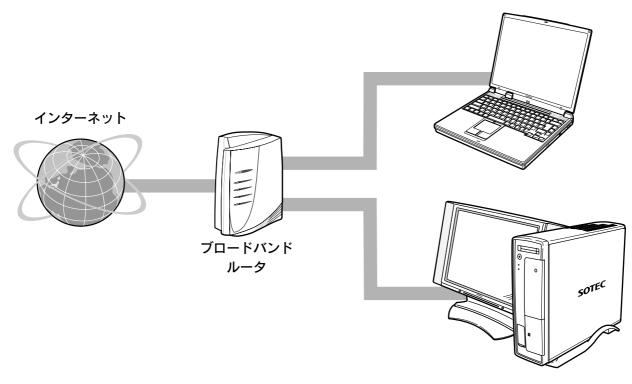
ハブ

複数のパソコンをネットワークに接続するための中継器です。10BASE-Tだけでなく、10BASE-Tと100BASE-TXを混在させて使用できるデュアルスピードハブもあります。

ブロードバンドルータ

複数のパソコンでインターネットを同時接続するための中継器です。ブロードバンド対応のインターネット回線をホームネットワークで共有する場合に必要です。ブロードバンドルータにはハブも内蔵されていますので、ブロードバンドルータを導入した場合は、ハブは不要になります。

ネットワークを構築する

ネットワークを構築するための手順を説明します。ネットワークの構築方法は多くの種類がありますが、ここでは次の図のように、２台のパソコンをブロードバンドルータに接続し、ネットワークを構築することを想定して説明します。

ネットワークを設定する

ネットワークを構築するための、パソコン上での設定を説明します。

ネットワークの設定は使用状況によって異なります。専門書籍を参照するか、Windowsネットワークシステムの技術者にご相談ください。

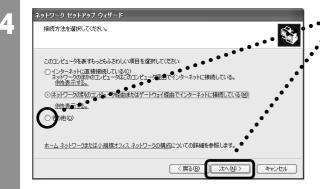
1 **[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[ネットワークセットアップウィザード]の順に選択します。**

【ネットワークセットアップウィザード】ダイアログが表示されます。

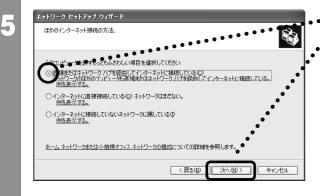
2 **[次へ]ボタンをクリックします。**

3

表示内容を確認したあと、[次へ]ボタンをクリックします。

4

ネットワークの形態にふさわしいものを選択して、[次へ]ボタンをクリックします。

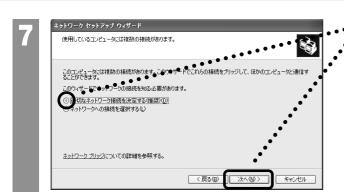
ここでは「その他」を選択します。

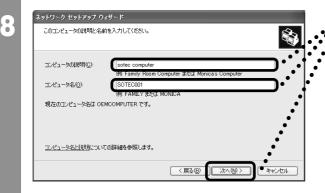
5

「直接またはネットワークハブを経由してインターネットに接続している」を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。

6

インターネットの接続に使用する通信機器を選択して[次へ]ボタンをクリックします。

STEP5

7

「適切なネットワーク接続を決定する(推奨)」が選択されていることを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

8

「コンピュータの説明」と「コンピュータ名」に任意で名前を入力して、[次へ]ボタンをクリックします。

9

「ワークグループ名」を入力して、[次へ]ボタンをクリックします。

10

ネットワークの接続設定を確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

[次へ]ボタンをクリックしたあと、ネットワークの構築が始まります。

11

任意でオプションを選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

ここでは｢ウィザードを完了し、ほかのコンピュータでウィザードを実行する必要はない｣を選択します。

ネットワークを構成する他のパソコンでネットワークのセットアップを行う場合は、「ネットワークセットアップディスクを作成する｣を選択してください。

12

[完了]ボタンをクリックします。

再起動を要求するダイアログが表示されます。

13

[はい]ボタンをクリックします。

これでネットワークの設定は終了です

ネットワークを確認する

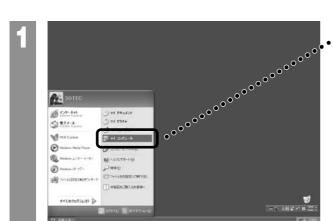
ネットワークが正しく構築されていることを確認しましょう。

1

[スタート]ボタン→[マイコンピュータ]を選択します。

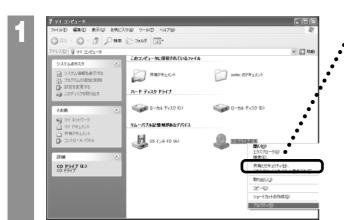
2

[マイネットワーク]を選択します。

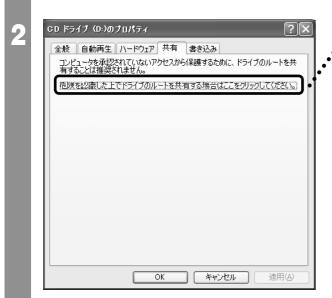
3

マイネットワーク上のローカルネットワークに、接続されたパソコンのアイコンが表示されていれば、ネットワークの構築は成功です。

ネットワークを共有する

ネットワークで接続されたパソコン同士では、1つのパソコンに接続されているプリンタやCD-ROMドライブを共有できます。ここではCD-ROMドライブを共有させる設定方法を説明します。

1

マイコンピュータ上にある、CDドライブのアイコンを右クリックし、表示されるメニューから[共有とセキュリティ]を選択します。

【CDドライブのプロパティ】のダイアログが表示されます。

2

「危険を認識した上でドライブのルートを共有する場合はここをクリックして下さい」をクリックします。

3

「ネットワーク上でこのフォルダを共有する」をチェックして、「共有名」に任意の名前を入力します。

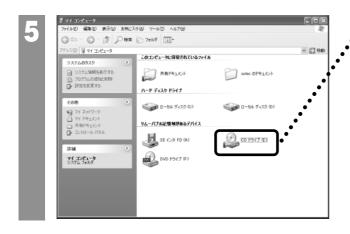
ここで入力した共有名が、ネットワーク上で表示されたときのドライブ名になります。

4

[適用]→[OK]の順にボタンをクリックします。

STEP5

インターネットとホームネットワーク

5

CD-ROM ドライブのアイコンに手のイラストがついていることを確認します。

手のイラストがついていれば、共有設定は完了です。

STEP6

困ったときには

STEP6では本製品をより快適に使っていただくために、トラブルの解決方法と、トラブルを予防する方法について説明しています。本製品を長くお使いいただくために、ぜひご活用ください。

1 故障かなと思ったら

本機をご使用中に何らかのトラブルが生じた場合、ここで説明する対処方法に従って処置してください。

参照 ここで説明する対処方法通りにしても解決できないときは「SOTECテクニカルサポートセンタ」までご連絡ください。(☞ SOTECテクニカルサポートセンタのご案内　参照)

パソコンの電源を入れたときに

電源スイッチを入れても動かない

・電源ケーブルは抜けていませんか？

電源ケーブルを差し込んでください。

画面に何も表示されない

・本機の電源は入っていますか？

本機の電源LEDを確認し、消えている場合は本機の電源スイッチを入れてください。
(☞ 18ページ)

・ディスプレイのケーブルは外れていませんか？

ディスプレイのケーブルを正しく接続してください。

参照 本機とディスプレイの接続については「Vシリーズファーストステップガイド」をご参照ください。

・ディスプレイの電源は入っていますか？

ディスプレイの電源を入れてください。

Windows XPが起動しない

・フロッピーディスクがドライブにセットされたままになっていませんか？

フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。

周辺機器を取り付けたら Windows XPが起動しない

・周辺機器のデバイスドライバが原因でWindows XPが起動できなくなった可能性があります。

「セーフモード」でWindows XPを起動して、トラブルの原因と思われるデバイスドライバを無効にしてください。この方法でWindows XPが正常に起動した場合、正しいデバイスドライバをインストールするか、デバイスドライバ自体を削除する必要があります。

[セーフモード]でデバイスを無効にするには、次の操作に従って設定してください。

①本機の電源をONにし、メモリチェックが終了したらF8キーを押し続けます。
②[Windows拡張オプションメニュー]が表示されるので、[セーフモード]をキーボードで選択します。
③[オペレーティングシステムの選択]で[Microsoft Windows XP]を選択します。
④ユーザー名を選択すると、セーフモードでWindows XPが起動します。
⑤【デバイスマネージャ】ダイアログを表示させ(☞ 115ページ)、追加した周辺機器の【プロパティ】ダイアログで[全般]タブをクリックします。
⑥[すべてのハードウェアプロファイルを使用する]のチェックを外し、[OK]ボタンをクリックします。

Windows XPを再起動すると、通常のモードでWindows XPが起動します。

この方法でもWindows XPが起動しない場合、本機の電源をOFFにしてから、新しく取り付けた周辺機器を外してください。

パソコンを使っていたら

いきなり画面が消えた

・**電源ケーブルが電源コンセントから外れていませんか？**

コンセントまたはプラグを差し込みなおしてください。

・**ディスプレイのケーブルが外れていませんか？**

ディスプレイのケーブルを正しく接続してください。

・**スタンバイもしくは休止状態に入った可能性があります。**

電源スイッチを押してください。
(☞ 40～43ページ)

表示される日付や時刻が正しくない

・**日付や時刻設定をしていないか、間違った設定になっていませんか？**

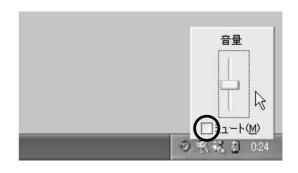
Windowsのタスクバーの時刻をダブルクリックして「日付と時刻のプロパティ」を起動します。【日付と時刻のプロパティ】ダイアログで正しい日付や時刻を設定してください。

音が出ない

・**スピーカは正しく接続されていますか？**

本機にスピーカが正しく接続されているか、ご確認ください。

・**スピーカの音量が「ミュート」になっていませんか？**

ボリュームコントロールで「ミュート」のチェックを外してください。(☞ 34ページ)

フロッピーディスクの内容が読み書きできない

・**フロッピーディスクが正しくセットされているか確認してください。**

フロッピーディスクを正しくセットして、もう一度やり直してください。(☞ 28ページ)

・**フロッピーディスクをフォーマットしていますか？**

フロッピーディスクをフォーマットしてからご使用ください。

・**フロッピーディスクの内容が壊れていませんか？**

壊れた内容は元に戻りません。バックアップを取っている場合は、それを使用してください。大切なデータはバックアップを取るように心がけてください。

・フロッピーディスクドライブが故障していませんか?

別のフロッピーディスクをセットしても読み書きできないときは、フロッピーディスクドライブが故障しています。SOTECテクニカルサポートセンタへお問い合わせください。

・フロッピーディスクが書き込み禁止状態になっていませんか?

ライトプロテクトノッチを書き込み可能な状態にしてください。(☞ 27ページ)

・1.2MBフォーマットのフロッピーディスクを使用していませんか?

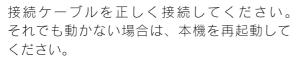
本機のフロッピーディスクドライブでは1.2MBフォーマットのフロッピーディスクは使用できません。

・フロッピーディスクの空き容量は十分ですか?

不要なファイルを削除するか、新しいフロッピーディスクを使用してください。

マウスが動作しない

・接続ケーブルが外れていませんか?

接続ケーブルを正しく接続してください。それでも動かない場合は、本機を再起動してください。

・本機の電源をONにした後にマウスを接続していませんか?

マウスを接続後、再起動してください。

・適正なマウスドライバを使用していますか?

付属のマウス以外を使用する場合は、専用のマウスドライバが必要なものがあります。使用するマウスに付属のマウスドライバを正しくインストールしてください。

押したキーと違う文字が表示される

・Caps Lock、ひらがな/カタカナキーなどが間違って押されていませんか?

目的の文字がタイプされるように、Caps Lock、カタカナ/ひらがなキーを押してください。(☞ 26ページ)

・キーボードのドライバは適正なものですか?

キーボードのドライバがお使いのキーボードに対応したものではない可能性があります。キーボードのドライバを更新してください。
「ドライバの更新」(☞ 117ページ)

印刷できない
印刷がおかしい

・プリンタの電源は入っていますか?

プリンタの電源を入れてください。

・使用したいプリンタが「通常使うプリンタ」に設定されていますか?

次の手順で設定を変更してください。

①[スタート]ボタンから[プリンタとFAX]を選択します。
②【プリンタとFAX】ウィンドウが開きますので、使用したいプリンタのアイコンを右クリックし、「通常使うプリンタに設定」を選択します。

・プリンタケーブルが外れていたり、接触不良を起こしていませんか?

本体とプリンタが、プリンタケーブルで確実に接続されているか、ご確認ください。

・プリンタの用紙・トナー・インクが切れていませんか？

プリンタに付属の取扱説明書に従って、用紙・トナー・インクを補充してください。

・プリンタが印刷可能な状態になっていますか？

プリンタの状態が「印刷可」や「オンライン」の表示をしているかご確認ください。また、プリンタに付属の取扱説明書を参考に設定をご確認ください。

・プリンタのテスト印字はできますか？

プリンタには一般的にテスト印字機能があります。この機能を使ってテスト印字してください。テスト印字についてはプリンタに付属の取扱説明書を参照してください。テスト印字ができないときは、プリンタの故障が考えられます。プリンタの製造元にご相談ください。

・プリンタケーブルの種類は適切ですか？

プリンタによっては、製造元の指定したケーブルを使わないと印刷がうまくいかない場合があります。プリンタに付属の取扱説明書で、使用するケーブルをご確認ください。

・プリンタの設定は正しいですか？

プリンタに付属の取扱説明書を参考に、設定が正しいかご確認ください。

・プリンタドライバは正しくインストールされていますか？

新しくプリンタを接続したときは、プリンタドライバのインストールが必要です。
「ドライバの更新」(☞ 117ページ)などを使い、インストールしてください。なお、なるべく最新のデバイスドライバを使用することをお勧めします。最新のデバイスドライバは周辺機器メーカのホームページから入手できます。

・プリンタドライバの設定を確認してください

プリンタドライバの設定によっては正しく印刷されないことがあります。プリンタの設定に関してはプリンタに付属の取扱説明書を参考にするか、プリンタのメーカにお問い合わせください。

CD-ROMを使っていたら

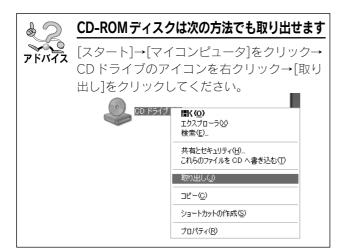
CD-ROMドライブのディスクトレイが出し入れできない

・本機の電源は入っていますか？

本機の電源を入れてからCDイジェクトボタンを押してください。電源が切れている状態では出し入れできません。
電源が入っているのにディスクトレイが出てこない場合は、ドライブ前面にある強制排出穴に細いピンを差し込んで、ディスクトレイを強制排出させます。

アドバイス

CD-ROMディスクは次の方法でも取り出せます

[スタート]→[マイコンピュータ]をクリック→CDドライブのアイコンを右クリック→[取り出し]をクリックしてください。

音楽CDが音飛びする、CD-ROMディスクのデータを読み出せない

・CD-ROMディスクは正しくセットされていますか？

CD-ROMディスクの表裏を確認して、本機のディスクトレイの中心に正しくセットしてください。CD-ROMディスクは記録面をトレイ側にしてセットします。
(☞ 30ページ)

・CD-ROMディスクに汚れや傷はありませんか？

CD-ROMディスクが汚れている場合、乾いた柔らかい布で内側から外側に向かって拭いてください。CD-ROMディスクに傷がある場合、データを正常に読み出せません。

・動作中に何らかの振動を本機に与えませんでしたか？

再生中/読み込み中に振動を与えると、データの読み込みミスが起こります。本機に振動を与えないでください。

再生中の動画がとぎれる 再生がぎこちない

・他のアプリケーションと同時に実行していませんか？

他のアプリケーションを終了させてください。動画データなどの再生には、本機の処理能力が多く必要です。このため、複数のアプリケーションを同時に使用すると、動画データの処理が追いつかなくなり、画像がとぎれたり、動きがぎこちなくなります。

・画面設定は適切ですか？

画面の設定によっては再生に必要な処理能力が多く必要になります。解像度を下げるなどの確認をしてください。(たとえば、32ビットカラーから16ビットカラーへ変更する、再生ウィンドウを小さくする、など)
(☞ 38ページ)

・再生中に、ウィンドウの大きさや位置を変えませんでしたか？

動画を再生中にウィンドウの大きさや位置を変えると、音飛びや画像の乱れの原因になります。ウィンドウの大きさや位置を変えるときは、いったん動画の再生を停止または一時停止にして実行してください。

動画の再生中に画面が消えてしまう

・省電力機能が働いている可能性があります。

動画を再生中、省電力機能が働くと再生画面が消えてしまいます。動画を再生するときは、本機とディスプレイの省電力機能を無効にしておいてください。(☞ 39ページ)

周辺機器を使おうとしたら

周辺機器を接続しても、自動的に設定が始まらない

・周辺機器によっては、自動的に設定が始まらないものがあります。

次の手順で周辺機器を認識さてください。

① [スタート]ボタン→[コントロールパネル]を選択します。
② [プリンタとその他のハードウェア]アイコンをクリックします。
③ 画面左の[ハードウェアの追加]アイコンをクリックし、新しいハードウェアの追加ウィザードを起動させます。

以降の操作は、画面に表示される指示、および周辺機器に付属の取扱説明書をご参照ください。

これでも周辺機器を認識しない場合、ケーブルの接続やID番号などの設定を再確認してください。

デバイスドライバをインストールしようとしても、「デバイスドライバが見つかりません」と表示される

・周辺機器とデバイスドライバが合ってないか、デバイスドライバが壊れています。

デバイスドライバを更新してください。
「ドライバの更新」(☞ 117ページ)

電源をつけるたびに、同じプリンタドライバをインストールするようメッセージが表示される

・最初にプリンタドライバをインストールしたとき、正しくインストールされなかった可能性があります。

一度プリンタドライバを削除し、再インストールしてください。

① [スタート]ボタン→[プリンタとFAX]を選択し、【プリンタとFAX】ウィンドウ内のプリンタのアイコンを全て削除します。
② [プリンタの追加インストール]アイコンをクリックして、再度、プリンタドライバをインストールします。

周辺機器が動かない

・本機の電源を入れた後に、周辺機器の電源を入れませんでしたか？

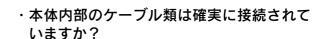
周辺機器の電源を入れた状態で、本機を再起動してください。USB対応機器以外の外付けの周辺機器は、本機よりも先に周辺機器の電源を入れる必要があります。

・取り付けた周辺機器は、本機に対応しているものですか？

取り付けた周辺機器が本機で使えるものかどうか、周辺機器に付属の取扱説明書をよく読むか、周辺機器メーカに問い合わせて確認してください。

・ケーブルは正しく接続されていますか？

周辺機器と本機がケーブルで確実に接続されているか、そのケーブルが周辺機器に対応しているか、コネクタの位置は正常かを確認してください。

・本体内部のケーブル類は確実に接続されていますか？

内蔵型の周辺機器を取り付ける際、本機内部のケーブルがコネクタから外れている場合があります。本機内部のケーブルに異常がないか確認してください。

・デバイスドライバは正常に組み込まれましたか？

周辺機器によっては、周辺機器を取り付けた後、本機にデバイスドライバやソフトウェアを組み込む(インストールする)必要があります。周辺機器に付属の取扱説明書をよくお読みになり、デバイスドライバを組み込んでください。

・周辺機器を、一度に複数取り付けませんでしたか？

周辺機器を１つずつ外して、動作確認をしてください。

・他の機器と競合していませんか？

SCSI機器の場合、他の周辺機器とID番号が重なっていると認識できません。他の周辺機器とID番号が重複していないか確認してください。また、その他にドライブ番号やリソース番号が重複していることも考えられます。ドライブ番号の変更や、リソースの割り付けを見直してください。(☞ 118ページ)

USB機器のコネクタを差し込んだが認識されない

・周辺機器によっては、自動的に設定が始まらないものがあります。

USBコネクタの抜き差しは、３秒以上の間隔をあけてください。USB機器が何も反応しなくなってしまった場合は、Windows XPを再起動させ、再度USB機器を接続してください。
(☞ 60、113ページ)

SCSI機器がうまく動かない

・ケーブルは各SCSI機器に確実に接続されていますか？

ケーブルが本機(SCSIカード)とSCSI機器に確実に接続されているかご確認ください。
(☞ 83ページ)

・ケーブルの品質は大丈夫ですか?

ケーブルが断線していないかテスターなどでご確認ください。また、SCSIでは高速データ転送を行うため、ハイインピーダンスケーブルのご使用をお勧めします。

・ケーブル長は制限範囲内ですか？

SCSI-2使用時、SCSIケーブルの総延長は3m以内という制限があります。なるべく短いケーブルを使用し、3mを超えない範囲にしてください。

・SCSIケーブルは適切なものですか？

SCSIケーブルは取り付けるSCSI機器のコネクタの形状により、使用するケーブルが異なります。機器のコネクタの形をよく確認し、対応したものを使用してください。機器によっては変換アダプタが必要な場合もあります。
(☞ 80ページ)

・終端設定(ターミネータ)は正しいですか？

終端のSCSI機器に、終端設定が行われているかご確認ください。
(☞ 83ページ)

・SCSIカードは正常に認識されていますか？

SCSIカードが正常に組み込まれていない場合、SCSI周辺機器は認識されません。SCSIカードの確認はデバイスマネージャで確認してください(☞ 115ページ)。組み込みが正しくできていない場合、SCSIコントローラの項目に警告が表示されます。

・ID番号の設定は正しくできていますか？

同じID番号を複数の機器で設定していると、各機器を認識できません。各機器のID番号が重複していないかご確認ください。また、ID番号は０～６の範囲で設定してください。
(☞ 83ページ)

・電源を入れる順番は正しいですか？

起動時、本機より先に外部周辺機器の電源を入れないと、外部機器は認識されません。電源を入れる順番を間違えた場合、一度本体の電源を切ってから再起動をしてください。また、デバイスマネージャでSCSIコントローラを選択し、更新を選択すると認識される場合もあります。
(☞ 117ページ)

使用できるSCSIケーブルについて

使用できるSCSIケーブルについては、各SCSI機器に付属の取扱説明書を参照するか、メーカにお問い合わせください。

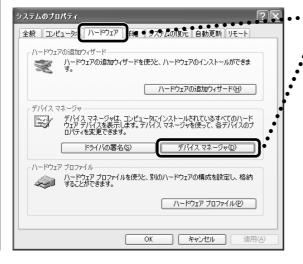
2 デバイスマネージャの設定

周辺機器がおかしいときや、手動で周辺機器を設定するときは、デバイスマネージャを使用します。ここではデバイスマネージャの基本的な使い方をはじめとした、周辺機器を取り付けるための予備知識を説明します。

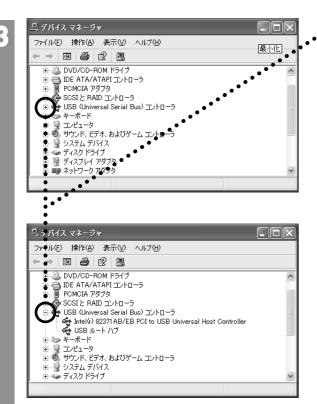
デバイスドライバの表示

ここではUSB機器を例に、周辺機器の状態をデバイスマネージャで確認します。

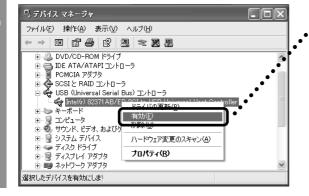
1 **[スタート]ボタンをクリックし、[マイコンピュータ]を右クリックして表示されるメニューから[プロパティ]を選択します。**

【システムのプロパティ】ダイアログが表示されます。

2 **[ハードウェア]タブを選択し、[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。**

【デバイスマネージャ】ダイアログが表示されます。

3

[USB(Universal Serial Bus)コントローラ]の ＋ の部分をクリックし、－ に変更させます。

のマークに×印が入っていないか確認します。×印が入ってなければ有効です。

4

USBに×印が入っているときは、×印がついているUSBポートを右クリックし、表示されるプルダウンメニューから「有効」を選択します。

×印がなくなり、USB機器が使用できるようになります。

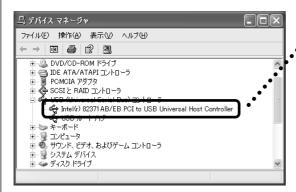
手順３で×印が入っていないときは、この手順は必要ありません。

ドライバの更新

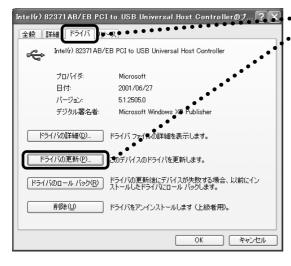
周辺機器のドライバが自動的にインストールされないときは、以下の手順でデバイスドライバをインストールしてください。

1 **設定したい周辺機器のデバイスドライバを表示します。**

「デバイスドライバの表示」(☞ 115ページ)

2

設定したい周辺機器をダブルクリックします。

設定したい周辺機器のプロパティが表示されます。

3

[ドライバ]タブを選択し、[ドライバの更新]ボタンをクリックします。

【ハードウェアの更新ウィザード】ダイアログが表示されます。

4 **ウィザードの指示に従い、ドライバをインストールします。**

リソースの競合について

リソースとは、本機と周辺機器が円滑に情報をやりとりするために必要な設定項目です。これらリソースの総数は限られており、周辺機器を増設する際には、残りの番号にそれらを割り当てる必要があります。
リソースは通常、Windowsが自動的に管理をするので自分で設定を管理する必要はありませんが、まれに同じリソース番号を複数の周辺機器に割り当ててしまうことがあります。この状態を「リソースの競合」といい、競合した状態では周辺機器は正常に作動しません。

リソースの確認

増設した周辺機器にリソースの競合が起こっているかどうかは、[デバイスマネージャ]で調べることができます。

デバイスマネージャを表示したときに警告マークが付いていたら、その機器の[プロパティ]を表示させます。[デバイスの状態]欄に「競合」を意味するメッセージが表示されているときは、リソースの競合が発生しています。

リソースの変更

リソースが競合している場合、リソースの割り当ての変更が必要です。

デバイスマネージャでリソース番号の空きを調べ、その番号を割り当てるか、当面使わない機器を一時的に「使用しない」に設定することで、その機器が使用していたリソースを解放し、新たに増設した周辺機器に割り当てることができます。リソースの割り当ての変更や、リソースの解放は、デバイスマネージャで設定します。

リソースについてさらに詳しく知りたい方は、市販のWindows XPの解説本やパソコン専門誌などをご参照ください。

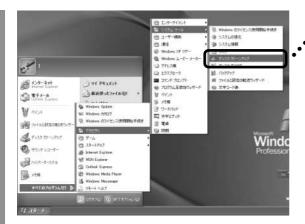
・リソースの競合を避けるために、ある機器のリソースを解放すると、その機器は使用できなくなります。再びその機器を使用する場合、リソースの再設定が必要です。
・機器によってはリソースの割り当て方に、制限がある場合があります。詳しくは、その機器に付属の取扱説明書をご参照ください。

3 ハードディスクのトラブル予防

ファイルを保存するハードディスクは、長く使っていると処理速度が遅くなったり、容量が少なくなったりします。ここでは本製品のハードディスクを、より快適に使うための機能を紹介します。

不要なファイルを削除する

Windows XPを使っていると、ソフトウェアで一時的に使用したファイルや、ごみ箱に捨てたファイルなどがたまります。これらは不要なファイルで、多くたまるとハードディスクの容量が少なくなり、ハードディスクの処理速度が遅くなります。不要なファイルは「ディスククリーンアップ」を使って削除できます。

1

[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[システムツール]→[ディスククリーンアップ]の順に選択します。

【ドライブの選択】ダイアログが表示されます。

2

対象となるハードディスクを指定し、[OK]ボタンをクリックします。

【ディスククリーンアップ】ダイアログが表示されます。

アドバイス ハードディスクがCドライブの場合、自動的にCドライブが設定されます。【ドライブの選択】ダイアログは表示されません。

3

ディスク クリーンアップ － (C:)

ディスク クリーンアップ　詳細オプション

ディスク クリーンアップを実行すると (C:) の空き領域が 6,717 KB 増加します。

削除するファイル(F):

	ファイル	サイズ
☑	ダウンロードされたプログラム ファイル	0 KB
☑	Temporary Internet Files	531 KB
☐	ごみ箱	6,154 KB
☐	一時ファイル	0 KB
☐	WebClient/Publisher の一時ファイル	32 KB

増加するディスク領域の合計: 531 KB

説明

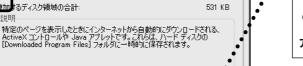
特定のページを表示したときにインターネットから自動的にダウンロードされる、ActiveX コントロールや Java アプレットです。これらは、ハード ディスクの [Downloaded Program Files] フォルダに一時的に保存されます。

ファイルの表示(V)

OK　キャンセル

削除するファイルにチェックを入れ、[OK]ボタンをクリックします。

アドバイス 削除するファイル名を選択することにより、ウィンドウ下部の「説明」欄にそれぞれのファイルについて説明文が表示されます。

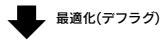
4

ファイル削除を確認するダイアログが表示されるので、[はい]ボタンをクリックします。

選択したファイルが削除され、自動的に【ディスククリーンアップ】ダイアログが閉じます。

処理速度を速くする

データのすき間

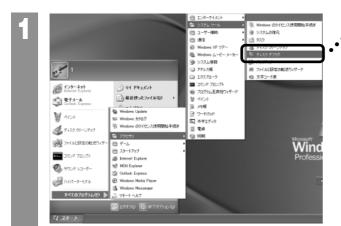
データA		データB	

	データD		データC

データE		データF		データG

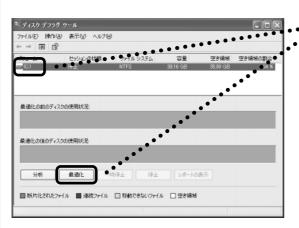
データA	データB	データC

データD	データE	データF	データG

ファイルの保存と削除を繰り返していると、左の図のようにハードディスクのデータにすき間ができます。
「ディスクデフラグ」を使ってデータのすき間を詰めると、ハードディスクの処理速度は速くなります。この操作を、最適化(デフラグ)といいます。

1

[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[システムツール]→[ディスクデフラグ]の順に選択します。

【ディスクデフラグツール】ダイアログが表示されます。

2

対象となるハードディスクを指定し、[最適化]ボタンをクリックします。

ハードディスクの最適化がはじまります。

最適化中はなるべくWindowsを使用しないでください。アプリケーションを起動したり操作すると、その都度最適化が中断されるので、最適化の終了が遅くなります。

3

ディスク デフラグ ツール
最適化が完了しました: (C:)
最適化できないファイルがこのボリュームにいくつかありました。
ファイルの一覧については、最適化のレポートを確認してください。
レポートの表示(R)　閉じる(C)

最適化の終了を知らせるダイアログが表示されるので、[閉じる]ボタンをクリックします。

自動的に【ディスクデフラグツール】ダイアログが閉じます。

バックアップをとる

※Windows XP Professionalのみの機能です。

誤って大切なファイルを削除した場合、一度消えたファイルは元に戻りません。万一に備え、ハードディスクの内容を別のディスクにコピーしておきましょう。この操作のことを、バックアップといいます。

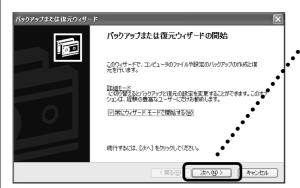
1

[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[システムツール]→[バックアップ]の順に選択します。

【バックアップまたは復元ウィザード】ダイアログが表示されます。

2

[次へ]ボタンをクリックします。

3

「ファイルと設定のバックアップを作成する」を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

4

バックアップを作成する項目を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

5 バックアップするファイルの保存場所を選択します。

6 バックアップの名前を入力して[次へ]ボタンをクリックします。

7 手順5で選択したバックアップの保存場所にディスクが準備できているか確認し、[完了]ボタンをクリックします。

バックアップが始まります。

次の画面が表示されたときは

バックアップファイルの大きさが、保存するディスクの空き領域を超えると、ディスクの交換を知らせるメッセージが表示されます。新しいディスクを入れ、[OK]ボタンをクリックしてください。

8 バックアップの完了を知らせるダイアログが表示されるので、[閉じる]ボタンをクリックします。

バックアップを使ってファイルを復元するには

バックアップを取っていれば、誤って削除してしまったファイルを復元することができます。「バックアップをとる」の手順3(☞ 121ページ)で「ファイルと設定を復元する」を選択し、表示される画面の指示に従って操作してください。

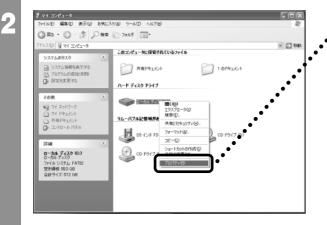
ハードディスクのエラーをチェックする

ハードディスクは外部からの磁気や衝撃を過度に受けると、ディスクそのものが壊れる恐れがあります。ディスクが壊れると、Windowsが起動しなくなったり、保存していたファイルが使えなくなることがあります。そのようなことを防ぐために、「エラーチェック」を定期的に使用して、ハードディスクのエラーをチェックしましょう。

1

[スタート]ボタン→[マイコンピュータ]を選択します。

【マイコンピュータ】ウィンドウが表示されます。

2

[ローカルディスク]アイコンの上で右クリックし、表示されるプルダウンメニューから「プロパティ」を選択します。

【ローカルディスク(C:)のプロパティ】ダイアログが表示されます。

3

「ツール」タブを選択し、「エラーチェック」欄の[チェックする]をクリックします。

【ディスクのチェックローカルディスク(C:)】ダイアログが表示されます。

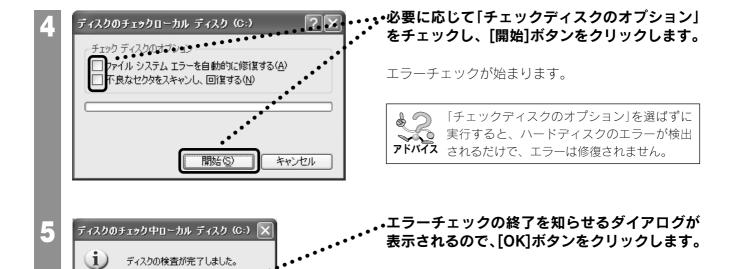
4

必要に応じて「チェックディスクのオプション」をチェックし、[開始]ボタンをクリックします。

エラーチェックが始まります。

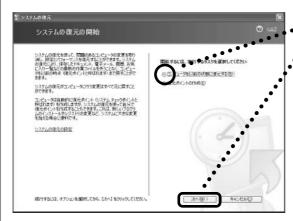
> アドバイス
> 「チェックディスクのオプション」を選ばずに実行すると、ハードディスクのエラーが検出されるだけで、エラーは修復されません。

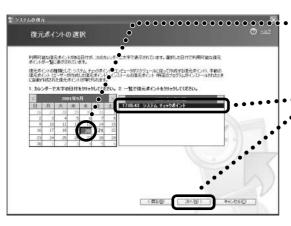
5

エラーチェックの終了を知らせるダイアログが表示されるので、[OK]ボタンをクリックします。

4 システムの復元

ソフトウェアのインストールやシステムの設定変更などが原因で、Windows XPが正常に動かなくなることがあります。「システムの復元」を使うと、Windows XPを正常だったときの状態に戻せます。

1 **[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[システムツール]→[システムの復元]をクリックします。**

【システムの復元】ウィザードが表示されます。

2 **「コンピュータを以前の状態に復元する」が選択されているのを確認し、[次へ]ボタンをクリックします。**

3 **復元ポイントのある日付を選択します。**

4 **復元ポイントを選択し、[次へ]ボタンをクリックします。**

復元ポイントとは、パソコンを復元するときに必要なデータのことです。復元ポイントは、パソコンが起動している10時間ごと、もしくはパソコンの電源を24時間以上切った状態で次に電源を入れたときに、自動的に作成されます。また、手動で作成することもできます。手順2で「復元ポイントの作成」を選択し、ウィザードの指示に従い操作してください。

5

[次へ]ボタンをクリックします。

復元がはじまり、Windowsが再起動します。

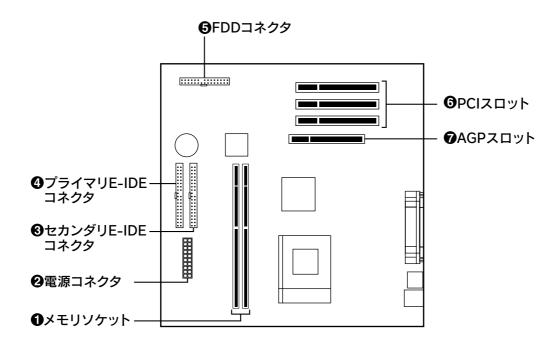
6

[OK]ボタンをクリックします。

システムを復元したことにより、大事なファイルを失ってしまったときは、システムの復元作業を取り消すことができます。前のページの手順2で、「以前の復元を取り消す」を選択し、ウィザードの指示に従い操作してください。

付　録

1 マザーボードの名前と機能

マザーボードの名前と機能について説明します。

❶ メモリソケット
メモリを設置する場所です。本機に搭載できるメモリはDIMMメモリのみです。

❷ 電源コネクタ
電源ユニットからマザーボードに電源を供給するためのコネクタです。

❸ セカンダリE-IDEコネクタ
IDEハードディスクやCD-ROMドライブ、MOドライブなどを接続するコネクタです。このコネクタはセカンダリ対応です。

❹ プライマリE-IDEコネクタ
IDEハードディスクやCD-ROMドライブ、MOドライブなどを接続するコネクタです。このコネクタはプライマリ対応です。

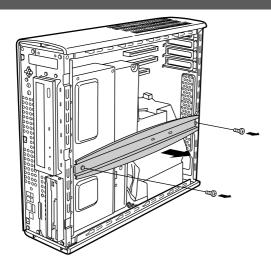
❺FDDコネクタ
3.5インチフロッピーディスクドライブを接続するコネクタです。

❻PCIスロット
PCIバス対応の拡張カードを接続するスロットです。

❼AGPスロット
ビデオカード専用の拡張スロットです。出荷時にはディスプレイと接続するためのカードが装着されています。

2 5インチベイ機器の取り付けと取り外し

ここでは、5インチベイ機器の取り外し、および取り付け方法を説明します。

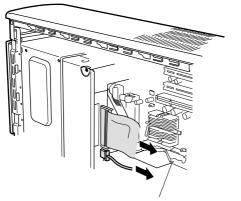
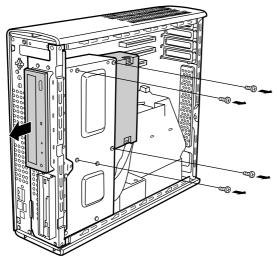
5インチベイからの機器の取り外し

チェック 本機にあらかじめ接続されている5インチベイ機器以外は、トレイの開閉をサポートしていません。

1 **本体カバーおよび前面カバーを取り外します。**

「本体カバーの取り外し」(☞ 66ページ)
「前面カバーの取り外し」(☞ 68ページ)

2 **本機にシャーシを固定している2つのネジを取り外し、シャーシを本機から取り外します。**

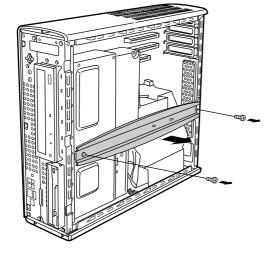
3 **電源ケーブルとフラットケーブルを5インチベイ機器から外します。**

5インチベイ機器にLEDケーブルが接続されている場合は外します。

4 **5インチベイ機器をスロットに固定している4つのネジを外し、5インチベイ機器をスロットから引き出します。**

5 **本体カバーと前面カバーを取り付けます。**

「本体カバーの取り付け」(☞ 67ページ)
「前面カバーの取り付け」(☞ 69ページ)

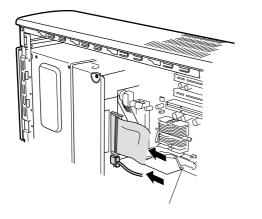
5インチベイへの機器の取り付け

1 **本体カバーおよび前面カバーを取り外します。**

「本体カバーの取り外し」(☞ 66ページ)
「前面カバーの取り外し」(☞ 68ページ)

2 **本機にシャーシを固定している2つのネジを取り外し、シャーシを本機から取り外します。**

3 **5インチベイ機器のマニュアルを参考に、ジャンパ/スイッチ/ターミネータなどを調整します。**

4 **5インチベイ機器のネジ穴がスロットの穴と揃うまで、5インチベイ機器をスロットに挿入します。**

5 **スロットの穴とドライブの穴を揃え、4つのネジで5インチベイ機器をスロットに固定します。**

6 **電源ケーブルとフラットケーブルを5インチベイ機器に接続します。**

LEDケーブルの接続が必要な機器の場合は接続します。

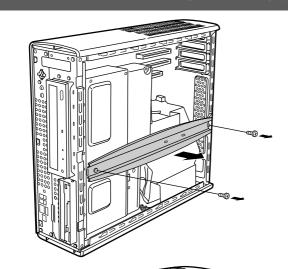
7 **本体カバーと前面カバーを取り付けます。**

「本体カバーの取り付け」(☞ 67ページ)
「前面カバーの取り付け」(☞ 69ページ)

3 フロッピーディスクドライブの取り付けと取り外し

本製品には、3.5インチフロッピーディスクドライブが内蔵されています。ここでは、フロッピーディスクドライブの取り付けと取り外しについて説明します。

3.5インチフロッピーディスクドライブの取り外し

1

本体カバーおよび前面カバーを取り外します。

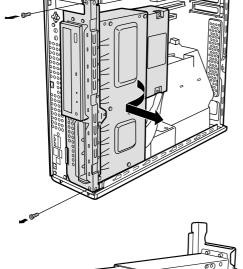
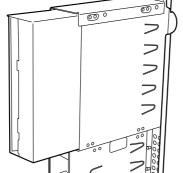
「本体カバーの取り外し」(☞ 66ページ)
「前面カバーの取り外し」(☞ 68ページ)

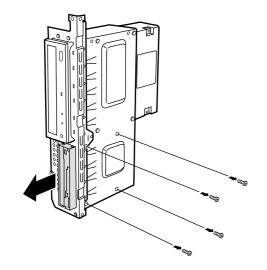
2

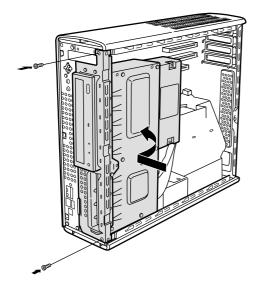
本機にシャーシを固定している2つのネジを取り外し、シャーシを本機から取り外します。

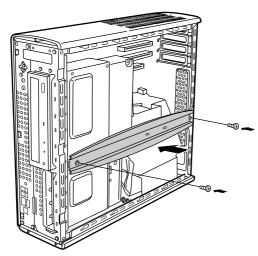
3

本機にドライブブランケットを固定している2つのネジを取り外し、矢印の方向に動かしながら、ドライブブランケットを取り外します。

4

電源ケーブルとフラットケーブルをフロッピーディスクドライブから抜きます。

5

フロッピーディスクドライブをドライブブランケットに固定している4つのネジを外し、フロッピーディスクドライブをドライブブランケットから引き出します。

6

矢印の方向に動かしながら、ドライブブランケットを本機に取り付け、2つのネジでドライブブランケットを本機に固定します。

付録

7

本機にシャーシを取り付け、2つのネジで固定します。

8

前面カバーと本体カバーを取り付けます。

「本体カバーの取り付け」(☞ 67ページ)
「前面カバーの取り付け」(☞ 69ページ)

取り外したドライブを戻す予定がなく、同じケーブルを共用するフロッピーディスクドライブが他にない場合は、マザーボードからケーブルを抜きます。

3.5インチフロッピーディスクドライブの取り付け

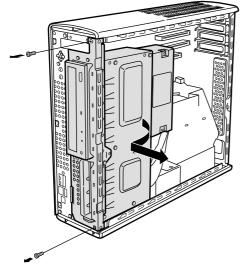
1

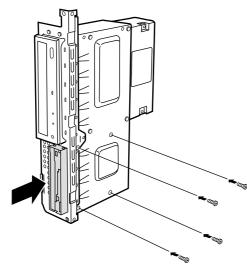
本体カバーと前面カバーを取り外します。

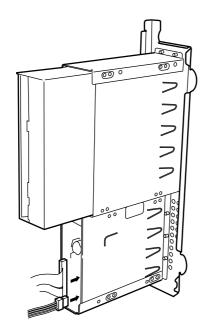
「本体カバーの取り外し」(☞ 66ページ)
「前面カバーの取り外し」(☞ 68ページ)

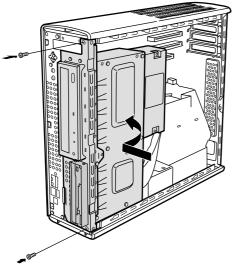
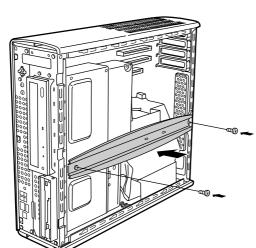
2

本機にシャーシを固定している２つのネジを取り外し、シャーシを本機から取り外します。

3

本機にドライブブランケットを固定している２つのネジを取り外し、矢印の方向に動かしながら、ドライブブランケットを取り外します。

4

矢印の方向に動かしながら、フロッピーディスクドライブをドライブブランケットに差し込み、ネジで固定します。

5

電源ケーブルとフラットケーブルをフロッピーディスクドライブに差し込みます。

6

矢印の方向に動かしながら、ドライブブランケットを本機に取り付け、2つのネジでドライブブランケットを本機に固定します。

7

本機にシャーシを取り付け、2つのネジで固定します。

8

前面カバーと本体カバーを取り付けます。

「本体カバーの取り付け」(☞ 67ページ)
「前面カバーの取り付け」(☞ 69ページ)

4 BIOSを設定する

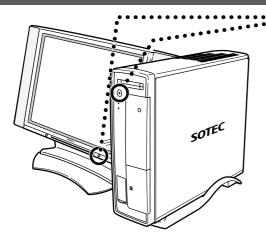
ここではBIOSの概要と、BIOSを設定するための「BIOSセットアッププログラム」の操作方法について説明します。

BIOSとは

"BIOS"とは「Basic Input Output System」の略称で、具体的にパソコンを動作させるためのプログラムです。このBIOSの設定を正しく行うことで、パソコンの性能を正しく引き出すことができます。
本機ではあらかじめ、最適の状態でBIOSが設定されています。ただし、本機の拡張などを行った際には、拡張する機器に合わせてBIOSの設定を変更する必要があります。

BIOSの設定は複雑で、誤った設定をしてしまうと、本機が正常に動かなくなる恐れがあります。特に理由もなくBIOSの設定を変更しないでください。
誤った設定により本機が正しく動作しなくなった場合には、BIOSが起動している状態で F7 キーを押します。BIOSの設定を初期設定に戻すかどうかのメッセージが表示されるので[YES]を選択してください。BIOSの設定が初期状態に戻り、Windowsが再起動されます。

BIOSセットアッププログラムの起動

1

本機の電源がOFFであることを確認した後、ディスプレイ、パソコンの順に電源を入れます。

2

"SOTEC"のロゴが入った画面が表示されたら、Delete キーを押します。

しばらくすると、セットアッププログラムの起動画面が表示されます。

付録

項目の選択・設定の方法

BIOSセットアップブログラムは、次のキーを使って操作します。

- 項目を左右に移動するには　→←キー
- 項目を上下に移動するには　↓↑キー
- サブメニューへ移動するには　↵キー
- ヘルプを見るには　F1キー
- 変更した設定値を保存して終了するには　F10キー
- メニューを終了するには　Escキー
- 設定値を変更するには　PageUp PageDownまたは－＋キー

参照

BIOSの詳しい操作方法についてはWindowsのデスクトップ画面から[スタート]ボタン→[本製品をご購入のお客様へ]→[BIOSマニュアル]を、ご参照ください。

BIOSセットアッププログラムの終了

設定した内容を保存して終了する

① F10キーを押すか、[Save&Exit Setup]にカーソルをあわせ↵キーを押します。

② [Save to CMOS and EXIT(Y/N)？]とメッセージが表示されるので、Yキーを押すと、変更した設定値を保存して終了します。

設定した内容を保存せずに終了する

① [EXIT Without Saving]にカーソルをあわせて↵キーを押します。

② [Quit Without Saving(Y/N)？]とメッセージが表示されるので、Yキーを押すと、変更した設定の保存を行わずに終了します。

BIOSセットアッププログラムのメニュー構成

BIOSセットアッププログラムは次のメニューから構成され、それぞれのメニューで設定できる内容は次のようになっています。

メニュー	内　容
Standard CMOS Features	内部のシステムクロック(時分秒)やカレンダー(年月日)の設定をします。
Advanced BIOS Feature	起動時の各種設定ができます。
Integrated Peripherals	本機のパラレルポート、シリアルポートなどの設定をします。
Power Management	省電力で本機を動作させるなど、電源管理の設定をします。
Pnp/PCI Configurations	PCIスロットなどの設定をします。
Load Optimized Defaults	システムの最適な状態に設定をします。
Set Supervisor Password	システム管理者のパスワードを設定します。
Save＆Exit Setup	設定した内容を保存して終了する場合に選択します。
Exit Without Saving	保存せずに終了する場合に選択します。

5 用語集

本機に関連する用語を説明しています。

bit

「ビット」と読む。データの大きさの単位のこと。
8bit=1Byte
と換算できる。
→Byte

bps

「bit per second」の略で「ビーピーエス」と読む。通信速度の単位のこと。インターネットなどでよく使われる。
8Mbpsで1秒間に8Mbit(1MByte フロッピーディスク1枚弱くらい)の情報量が通信されるということになる。
→bit、Byte、通信速度

Byte

「バイト」と読む。データの大きさの単位のこと。
1KB=1024Byte
1MB=1024KB
1GB=1024MB
と換算できる。
1Byteは半角文字1文字分のデータ量に相当する。
→GB、KB、MB

CPU

「Central Processing Unit」の略で「シーピーユー」と読む。人間の体で例えるならば大脳にあたる。コンピュータの中心となる部分で、いろいろな演算や制御を行う。

dpi

「Dots Per Inch」の略で「ディーピーアイ」と読む。プリンタやスキャナなどでの印字の精密さを表す単位のこと。一般的にこのdpiの数値が高ければ高いほど、精密な印刷などができ、高性能の製品ということになる。
→スキャナ

GB

「Giga Byte」の略で「ギガバイト」と読む。データの大きさの単位のこと。1GB=1024MBである。
→Byte、MB

Hz

「Helz」の略で「ヘルツ」と読む。周波数・振動数の単位で、コンピュータのCPUのクロック周波数を表すのによく使われる。一般的にCPUのHzの数値が高ければ高いほど、そのCPUは高性能である。
→CPU、クロック周波数

JPEG

「Joint Photographic Expert Group」の略で「ジェイペグ」と読む。カラー静止画像の圧縮・伸長方式のこと。現在では国際標準の規格となっていて、コンピュータの機種に関係なくファイルの交換できるメリットがあることなどから、インターネットなどでよく使われている。

KB

「Kilo Byte」の略で「キロバイト」と読む。データの大きさの単位のこと。1KB=1024Byteである。
→Byte

MB

「Mega Byte」の略で「メガバイト」と読む。データの大きさの単位のこと。1MB=1024KBである。
→Byte、KB

MO

「Magnet Optical」の略で「エムオー」と読む。光磁気ディスクとも呼ばれていて、レーザー光を磁場を利用して高密度でデータを記憶できる円盤型の記憶媒体である。記憶容量は128MB～1.3GBまでのものがある。(2001年10月現在)
→GB、MB

MPEG

「Motion Picture Expert Group」の略で「エムペグ」と読む。カラー動画像の圧縮方式のこと。カラーの動画像データを再生するためには膨大な処理能力を必要とするので、そのための動画像を圧縮処理をする標準化したものを指す。
また、MPEGは音声圧縮も扱っており、mp3(MPEG Audio Layer-3)などが有名である。

OS

→オペレーティングシステム

RAM

英語のランダムアクセスメモリ(Random Access Memory)の略で「ラム」と読む。自由に読み書きができるメモリのこと。プログラムのほとんどが、RAMに読み込まれてから動作するようになっている。また、データもRAMに読み込んでから処理される。
→メモリ

ROM

英語のリードオンリーメモリ(Read Only Memory)の略で「ロム」と読む。読み込むことしかできないメモリのこと。システムソフトウェアはROMに書き込まれていることが多い。
→ソフトウェア、メモリ

RS-232C

米電子工業会(EIA)によって規定されたコンピュータと周辺装置とのインターフェースの規格のこと。外付けのモデムに接続する場合、このインターフェースを利用するのが一般的である。
→インターフェース、モデム

TCP/IP

「Transmission Control Protocol/Internet Protocol」の略で、「ティーシーピーアイピー」と読む。ネットワーク(インターネットを含む)で通信する際に使用される最も基本的なプロトコルの集まり。
→プロトコル

VRAM

「Video RAM」の略で「ブイラム」と読む。ディスプレイに文字や画像を表示するためのデータを書き込む、画像表示専用メモリのこと。文字を表示するテキスト用VRAMと、画像を表示するグラフィック用VRAMに分けられる。
→メモリ

Windows

「ウィンドウズ」と読む。「見ただけでわかる、誰でも簡単に操作できるOSを」という趣旨で、マイクロソフト社が開発したOSのこと。操作する内容は、ひと目でわかるさまざまな色のグラフィック(絵や図形)で画面に表示され、基本的なほとんどの操作は、マウスで行える。
→オペレーティングシステム(OS)

アイコン

マウスを使用するソフトウェアで、命令や処理を表現するために使用する絵文字のこと。
→ソフトウェア

アプリケーションソフトウェア

文書作成、データ管理、表計算などといった作業を実行するために開発されたソフトウェアのこと。
→ソフトウェア

アンインストール

ハードディスクなどに組み込まれたソフトウェアをそのハードウェアから削除すること。
→ソフトウェア、ハードウェア

インストール

ソフトウェアをハードディスクに組み込んで使用できる状態にすること。
→ソフトウェア

インターフェース

装置と装置の接続仕様のこと。通常、パソコン本体と周辺機器とをつなぐコネクタなどを指すことが多い。
→コネクタ、周辺機器

オペレーティングシステム(OS)

ハードウェアとアプリケーションソフトウェアの間で、プログラムの制御や管理、入出力の制御などを行うためのソフトウェア全般のこと。Windowsもこれにあたる。
→Windows、アプリケーションソフトウェア、
　ハードウェア

カーソル

ディスプレイ上に文字や図形を入力、表示する位置を示すマークのこと。四角が画面上に点滅するもの、下線が点滅するものなどがある。

解像度

ディスプレイ上で表示するとき、どれだけ精密に表示できるかを示す基準のこと。ディスプレイの画面は、ドット(点)で表示されていて、このドット数が多ければ多いほど、ディスプレイの表示範囲が広くなる。

クロック周波数

パソコン本体に内蔵されているCPUの動作周波数のこと。同じCPUであれば、この数値が大きいほど、パソコンの処理速度は速くなる。
→CPU、Hz

コネクタ

パソコン本体と周辺機器をつなぐ接続部分のこと。
→周辺機器

コンピュータウイルス

電子世界でのウイルスはプログラムのことである。コンピュータウイルスに感染したコンピュータはデータが破損されるなどの症状を引き起こす。
→ワクチン

システムソフトウェア

オペレーティングシステムなど、コンピュータを動かすための基本的なソフトウェアのこと。
→オペレーティングシステム(OS)、ソフトウェア

周辺機器

プリンタ、ディスプレイ、モデムなど、コンピュータ本体に接続して使用する本体以外の機器全般のこと。
→モデム

初期化

周辺機器や記憶媒体を使用できる状態にすること。記憶媒体の場合、どこをどういう情報に書き込むか、どの情報を読むかなどコンピュータにわかるように、いわば区画整理をして、あるソフトウェアのもとで使用できる状態にすることをいう。
→周辺機器、ソフトウェア

シリアルポート

主としてモデムを中心とした、周辺機器とコンピュータを接続するためのコネクタのこと。一度に1bitずつしかデータを送れないため、転送速度はあまり速くない。
→bit、周辺

スキャナ

絵や写真などを画像データとしてコンピュータに取り込む周辺機器のこと。
→周辺機器

スクロール

画面に表示する範囲を、上下左右に移動させること。

ソフトウェア

アプリケーションソフトウエア、システムソフトウェアなどプログラム全般のこと。コンピュータ本体、周辺機器などのハードウェアに対して、このように呼ばれる。
→アプリケーションソフトウエア、システムソフトウェア、周辺機器

ダウンロード

一般的に、インターネット上にあるファイルを自分のコンピュータに転送すること。

通信速度

単位時間あたりのデータの伝送速度のこと。よく使われる単位として、bps(bit per second)がある。
→bps

デジタルカメラ

撮った画像をネガではなくデジタルデータとして保存するカメラのこと。撮った画像をコンピュータに転送したり、編集することが容易である。

デバイス

コンピュータに接続される周辺機器のこと。
→周辺機器

デバイスドライバ

周辺機器をコンピュータと接続させて動かすときに、コンピュータが周辺機器を制御するために必要となるソフト。
→周辺機器

ドライブ

一般的にフロッピーディスク、CD-ROM、ハードディスクなどを動かす装置のことを指す。また、ハードディスク内などで論理的に分けられた場合などにもそれぞれを1つのドライブとよぶ。

ネットワーク

複数のコンピュータを電話回線などの通信網でつないで、データのやりとりをする形態のこと。インターネットやLANもネットワークの一種である。

バージョン

ソフトウェアやハードウェアなどの開発された順序を示す表現。書籍などの第X版にあたる。通常は数値などで表現される。
→ソフトウェア、ハードウェア

ハードウェア

コンピュータ本体や周辺機器などの機械類を総称して、ハードウェアという。これに対して、ハードウェアを動かすプログラムのことをソフトウェアという。
→周辺機器、ソフトウェア

パラレルポート

主としてプリンタを中心とした、周辺機器とコンピュータを接続するためのコネクタのこと。一度に複数個のデータを送れるため、シリアルポートより高速なデータ転送ができる。
→コネクタ、周辺機器、シリアルポート

フォーマット

ディスク(記憶媒体)を、OSで使用できるように設定すること。
→オペレーティングシステム(OS)

プラグイン

アプリケーションソフトウェアに追加機能を設定するためのプログラムのこと。
→アプリケーションソフトウェア

プロトコル

コンピュータがお互い接続でき、極力エラーを起こさずに情報をやり取りできるようにと設計された、一組の規則や規約のこと。インターネットで通信を行う場合のプロトコルは、TCP/IPである。
→TCP/IP

ブロードバンド

ADSL・ISDN・CATV・光ファイバーなどの、「高速通信」、「常時接続」、「定額料金」の特徴をもつインターネット接続サービスのこと。通信速度が速いので、インターネットライブやビデオメールなど大量のデータをストレスなく送受信できる。また、一定の料金で24時間いつでも使えるため、時間を気にせず経済的にインターネットが使える。

ポインティングデバイス

特定の指示した位置に入力をする装置の総称。マウスもポインティングデバイスの1つ。

補助記憶装置

メモリの容量不足を補うための記憶装置のこと。フロッピーディスクやハードディスクなどがそれにあたる。
→メモリ

マルチメディア

グラフィックス、サウンド、動画などを表現するメディアのこと。パソコン上ではこれらのメディアを、デジタル処理によって組み合わせて表現することもできる。

メモリ

CPUがデータを処理する際に、そのデータを一時的に保管する場所をいう。一般的にメモリにはRAMが使われる。
→CPU、RAM

モデム

「MODEM:MOdulator=変調器、DEModulator=復調器」という変復調器の英語からの造語されたもので、データ(情報)通信に用いられる機器のこと。電話回線の音声信号(アナログ信号)をコンピュータが処理できるデジタル信号に変調したり、あるいは、この逆の処理(復調)を行う。

ワクチン

コンピュータウイルスを発見・修正するためのプログラムのこと。
→コンピュータウイルス

6 索　引

付録

数字